

解説資料
小学校
国語

平成二十三年九月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成十九年度より小学校第六学年及び中学校第三学年の児童生徒を対象に実施されております。

平成二十三年度については、東日本大震災の影響等を考慮し、全国学力・学習状況調査としての調査の実施は見送られました。教育委員会及び学校等における教育に関する検証改善サイクルの継続を支援するため、希望する教育委員会及び学校等に対して、準備していた調査問題等を配布いたしました。

配布された調査問題等のうち、教科に関する調査（国語と算数・数学）に係る調査問題の作成は、国立教育政策研究所教育課程研究センターが担当しております。平成二十三年度全国学力・学習状況調査として実施予定であった調査問題（以下、調査問題という。）は、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなります。

主として「知識」に関する問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていくことが望ましい知識・技能などの内容となっております。また、主として「活用」に関する問題は、①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに係る内容となっております。

調査問題の作成に当たっては、学習指導要領に示されている内容が正しく理解されるよう留意するとともに、児童生徒に身に付けさせたい力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めました。

本資料は、教科に関する調査に係る調査問題について、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることができるよう、出題の趣旨、正答とその解説などをまとめたものです。

教育委員会及び学校等において、日常の学習指導や教育施策の改善・充実に生かしていただければ幸いです。また、学校においては、調査対象の学年や教科以外の先生方も含め、学校全体で有効に活用していただくことを期待します。

最後に、本資料の作成に当たり御協力いただきました皆様から御礼申し上げます。

平成二十三年九月

国立教育政策研究所 教育課程研究センター長

神代 浩

解説資料について

●本書の目的

本書は、平成二十三年全国学力・学習状況調査として実施予定であった調査問題（以下、本書では調査問題という。）の配布後速やかに、学校における児童生徒への学習指導の改善等に役立てることができるよう、教科に関する調査に係る調査問題についての解説などをまとめたものである。

調査問題は、設問ごとに解答の状況から学習上の課題を把握し、学習指導の改善等につなげることができるよう作成している。

本書においては、問題ごとの出題の趣旨や正答とその解説、その問題と関連して今後の学習指導において参考となる事柄を記述するとともに、設問ごとに予想される解答を整理した解答類型を掲載した。

教科に関する調査問題については、設問ごとに出題の趣旨に即して解答として求める条件を定めている。解答類型は、各条件に沿って児童生徒の解答を分類し、具体的な解答状況から学習上の課題を捉え、学習指導の改善等につなげることができるよう設定している。

教育委員会及び学校等において学習指導の改善等を行うに際し、本書を有効に御活用いただきたい。

●本書の内容・構成

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

調査問題作成の基本方針として、調査問題の出題範囲、問題作成の枠組みについて解説した。

II 調査問題の解説

問題ごとに、出題の趣旨や正答とその解説などについて記述した。

1 出題の趣旨

問題ごとに把握する力やその意義、場面設定などについての解説を記述した。

2 問題（各設問）の正答等

設問ごとの正答及び誤答などについての解説を記述した。

3 学習指導に当たって

問題と関連して、今後の学習指導において参考となる事柄を記述した。

4 出典等

著作物からの出題の場合、書名や著者名などを記述した。

Ⅲ 調査問題等

調査問題、解答用紙及び正答（例）を掲載した。なお、著作権の都合により問題の一部を省略した。

※ 障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に對しては、点字問題、拡大文字問題、総ルビ付き問題を用意した。

なお、点字問題については、問題が一部異なっており、本書ではその部分を掲載した。

（裏表紙の方から見るページ）

1 調査問題一覧表

問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式を一覧表にまとめた。

2 解答類型

解答類型は、具体的な解答の状況からも学習上の課題を捉え、学習指導の改善等につなげることができるよう、設問ごとの正答、予想される誤答、無解答などを分類し整理したものである。

正答については、設問の趣旨に即して解答として求める条件を定め、その条件を全て満たしているものを◎で表し、設問の趣旨に即し必要な条件を満たしているものを○で表した。

なお、解答類型には次のように番号を付けた。

類型1～類型8（最大）…正答・予想される誤答の類型

（複数の類型が正答となる問題もある。）

類型9 ……「上記以外の解答」（類型1

から類型8までに含まれない解答。）

類型0 ……「無解答」（解答の記入のないもの。）

3 質問紙調査項目（教科関連部分）

質問紙調査項目のうち、小学校国語科の教科に関する項目を掲載した。

目 次

（裏表紙の方から見るページ）

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| I | 小学校国語科の調査問題作成に当たって | 5 |
| II | 調査問題の解説 | |
| A | 主として「知識」に関する問題 | 11 |
| 1 | 漢字を読んだり書いたりする | 12 |
| 2 | 主語と述語とを照応する | 14 |
| 3 | 相手や目的に応じて自分の考えを話す | 16 |
| 4 | 接続関係を整えて書く | 18 |
| 5 | 表現の効果を考えて書き換える | 20 |
| 6 | 新聞記事を効果的に読む | 22 |
| 7 | 詩の情景を想像しながら読む | 26 |
| 8 | 国語辞典を利用して語句を調べる | 28 |
| 9 | 敬体と常体との違いに注意して書く | 30 |
| B | 主として「活用」に関する問題 | 33 |
| 1 | 目的や意図に応じて計画的に話し合う（学級の旗） | 34 |
| 2 | 理由を明確にして自分の考えを書く（児童会だより） | 42 |
| 3 | 伝記を読んで自分の考えを深める（植村直己） | 48 |
| III | 調査問題等 | |
| | 国語A（主として「知識」に関する問題） | 55 |
| | 国語B（主として「活用」に関する問題） | 73 |
| | 解答用紙 | 89 |
| | 正答（例） | 93 |
| | 点字問題（抜粋） | 97 |
| 1 | 調査問題一覧表 | 1 |
| A | 主として「知識」に関する問題 | 2 |
| B | 主として「活用」に関する問題 | 3 |
| 2 | 解答類型 | |
| A | 主として「知識」に関する問題 | 5 |
| B | 主として「活用」に関する問題 | 9 |
| | 点字問題部分 | 17 |
| 3 | 質問紙調査項目（教科関連部分） | 19 |

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題の基本的な枠組み

小学校国語科の調査問題は、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成十八年四月）の問題作成の基本理念を基本的な枠組みにしている。

○ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようなになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）

○ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など（主として「活用」に関する問題）

この二つの出題範囲・内容からも明らかのように、基本理念には、「実生活」に立脚する学力が含まれている。これは、学校で学習してきた知識・技能等が、児童生徒を取り巻く様々な生活場面において、活用できるようにすることが求められているからである。児童生徒にとつての「実生活」は、学校における各教科等の学習に加え、家庭生活や地域での生活を含めたものである。

国語の側面から考えると、読書などに親しむ生活（読書生活）、音声や文字で表現する生活（表現生活）など、言語生活を重視することが求められる。

また、報告書では、調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示すとともに、教員による指導改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つ

つことを重視している。国語科の調査問題においては、次のような観点を盛り込むことや工夫することが考えられるとしている。

■主として「知識」に関する問題

- ・ 描写、要約、紹介、説明、記録、報告、対話、討論などの基礎的な言語活動に関すること
- ・ 表現したり理解したりするための言語事項の基礎的な知識・技能に関すること
- ・ 我が国の言語文化に親しむ内容に関すること など

■主として「活用」に関する問題

- ・ 日常生活や社会生活で必要とされる読書・鑑賞・創作などの言語活動の活用に関すること
- ・ 文章を読んで筆者の主張の内容やその表現方法などを評価すること
- ・ 伝えたい内容をまとめ表現すること
- ・ 様々なメディアを活用することによって課題を多角的に探究すること など

これらに加え、報告書では、調査問題の内容や形式などについて、次のような点にも配慮することを求めている。

○ 学習指導の上で特に重要な点や課題になっている点に焦点を当てること

○ 個々の児童生徒への助言につながる点や課題解決の過程において違いが見られやすい点に焦点を当てること

○ 児童生徒が自分自身の学習改善や問題解決に役立つ点に配慮すること

○ 読解力向上プログラムなどと連動させた問題を考慮すること

さらに、国際的、科学的視点から質の高い調査問題の開発が期待されている。そこで、OECD（経済協力開発機構）によるPISA調査の概念的な枠組みの基本である主要能力（キーコンピテンシー）の考え方や多様なテキスト、出題の仕方なども参考にすることにした。

このような考え方にに基づき、出題の範囲・内容は、国の教育課程の基準としての小学校学習指導要領国語（平成十年告示）の目標及び内容によるものとした。

なお、調査問題の作成に当たっては、調査対象が第六学年であるので、第五学年の終了段階において習得すべき指導内容を出題範囲とした。

2 調査問題の出題範囲・内容

(1) 学習指導要領の指導内容

調査問題は、小学校学習指導要領国語（平成十年告示）の目標及び内容に基づき、第五学年の終了段階における基盤的な内容とした。具体的には次のような内容である。

■ A 話すこと・聞くこと

- ・ 話すことに関する指導事項
- ・ 聞くことに関する指導事項
- ・ 話し合うことに関する指導事項

■ B 書くこと

- ・ 目的意識・相手意識、自分の考えに関する指導事項
- ・ 取材に関する指導事項
- ・ 構成に関する指導事項

- ・ 記述に関する指導事項
- ・ 推敲・評価に関する指導事項

■ C 読むこと

- ・ 読書的な読むことに関する指導事項
- ・ 叙述内容に即した読むことに関する指導事項
- ・ 想像的な読むことに関する指導事項
- ・ 事象と感想、意見に関わる読むことに関する指導事項
- ・ 目的的な読むことに関する指導事項
- ・ 声に出して読むことに関する指導事項

■ 言語事項

① 言語に関する指導事項

- ・ 発音・発声に関する事項
- ・ 文字に関する事項
- ・ 表記に関する事項
- ・ 語句に関する事項
- ・ 文語調の文章に関する事項
- ・ 文及び文章の構成に関する事項
- ・ 言葉遣いに関する事項
- ② 書写に関する指導事項

なお、調査問題は、前述した「主として『知識』に関する問題」と

「主として『活用』に関する問題」に即して、二種類の冊子を作成した。

「国語A」は、「主として『知識』に関する問題」の冊子とし、解答時間は二十分の配当とした。「国語B」は、「主として『活用』に関する問題」の冊子とし、四十分の配当とした。

(2) 主として「知識」に関する問題の内容

「国語A」で出題した内容や趣旨は、次のとおりである。

| 問題番号 | 問題の内容 | 関連する主な指導内容 | 出題の趣旨 |
|------|-------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 1 | 漢字を読んだり書いたりする | 言語事項 (1) ア(ア) | 学年別漢字配当表の第五学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする。 |
| 2 | 主語と述語とを照応する | 言語事項 (1) エ(ア) (第一・二学年) | 文の中における複数の主語と述語とを照応する。 |
| 3 | 相手や目的に応じて自分の考えを話す | 話すこと・聞くこと ア (第三・四学年) | 相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話す。 |
| 4 | 接続関係を整えて書く | 書くこと ウ 言語事項 (1) オ(イ) ウ (第三・四学年) | 文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割を考えながら、接続関係を整えて書く。 |

| | | | |
|---|------------------|----------------------------------------------------|----------------------------|
| 5 | 表現の効果を考えて書き換える | 書くこと オ 言語事項 (1) オ(ア) | 目的や意図に応じ、表現の効果を考えて書き換える。 |
| 6 | 新聞記事を効果的に読む | 読むこと オ | 必要な情報を得るために、新聞記事を効果的に読む。 |
| 7 | 詩の情景を想像しながら読む | 読むこと ウ (第三・四学年) 言語事項 (1) ウ(エ) | 詩の情景について、叙述を基に想像しながら読む。 |
| 8 | 国語辞典を利用して語句を調べる | 言語事項 (1) エ(イ) (第三・四学年) | 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解する。 |
| 9 | 敬体と常体との違いに注意して書く | 書くこと ア (第三・四学年) 言語事項 (1) カ(ア) (第三・四学年) | 相手や目的に応じ、敬体と常体との違いに注意して書く。 |

このように、学習指導要領の三領域一事項にわたって出題した。

(3) 主として「活用」に関する問題の内容

「国語B」で出題した内容や趣旨は、次のとおりである。

| 問題番号 | 問題の内容 | 関連する主な指導内容 | 出題の趣旨 |
|------|------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1 | 目的や意図に応じて計画的に話し合う 〈学級の旗〉 | 話すこと・聞くこと イ・ウ (第三・四・五・六学年) 言語事項 (1) オウ (第三・四学年) | 話し手の意図を捉えながら聞き、司会や記録などの役割を果たしながら計画的に話し合う。 |
| 2 | 理由を明確にして自分の考えを書く 〈児童会だより〉 | 書くこと ア・エ 言語事項 (1) オウ (第三・四学年) | 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。 |
| 3 | 伝記を読んで自分の考えを深める 〈植村直己〉 | 読むこと ウ・オ | 伝記を比べて読み、優れた叙述を多面的に捉えたり、自分の考えを深めたりする。 |

このように、まとまった言語活動の中で知識・技能等を活用できるかどうかをみるために、三領域一事項の中から複数の指導内容を含めて取り上げた。

3 問題形式

問題形式については、次の三種類とした。

- 選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。
- 短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。

- 記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。

記述式の問題では、知識・技能等を生かし、相手や目的、意図、場面や状況などに応じて言語を操作したり運用したりする活用能力をみる。「書くこと」の問題に加え、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の問題においても記述式を採用する。

(1) 「話すこと・聞くこと」における記述

「話すこと・聞くこと」の指導においては、相手や目的、意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話す順序や構成を工夫し、適切な言葉遣いで話す能力を高めるとともに、話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、質問したり感想や意見を述べたりする能力を高めることが重要である。

記述の側面からみると、スピーチ原稿などのように話す事柄を分かりやすく整理して書いたり、インタビュー記録などのように聞いた事柄やそれらに対する感想、意見などを区別して書いたりするように指導することが大切である。

今回出題した「国語B」の問題1「目的や意図に応じて計画的に話し合う〈学級の旗〉」は、「話す・聞く能力」を問うものである。設問(1)では、互いの考えの共通点や相違点を聞き分け、司会の発言の内容をまとめて記述するようにした。

(2) 「書くこと」における記述

「書くこと」の指導においては、相手や目的、意図に応じて、調べたり考えたりしたことなどを、全体の構成を考えて文章に書く能力を高めることが重要である。

記述の側面からみると、礼状や依頼状、意見文、紹介文、記録文、報告文などの様々な様式の特徴を踏まえた上で、書くことの一連のプロセスに即して指導することが大切である。特に第五・六学年において、記録や報告などをまとめる場合、経験した事実等を客観的に記述するとともに、経験等を通して考えたことや得たことなどを明確にして記述することが必要となる。

今回出題した「国語B」の問題②「理由を明確にして自分の考えを書く（児童会だより）」は、「書く能力」を問うものである。ここでは、児童会の委員が提案した内容に対する学級の意見を採用するか否かということについての考えとその理由を明確にして記述するようにした。

(3) 「読むこと」における記述

「読むこと」の指導においては、目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえて自分の考えを明確にしながら読んだりする能力を高めることが重要である。

記述の側面からみると、目的に応じて本や文章を読み、その内容や構造、特徴について理解したことや、要旨や書き手の意図について解釈したり評価したりしたことをまとめて書くように指導することが大切である。また、自分の考えを広げたり深めたりするために読む場合においては、自分を取り巻く現実や今までの読書経験、体

験などと関係付け、感想文などに書きまとめるように指導することも大切である。その際、必要に応じて大事なことを引用したり要約したりして書くことなどが必要となる。

今回出題した「国語B」の問題③「伝記を読んで自分の考えを深める（植村直己）」は、「読む能力」を問うものである。ここでは設問にはしていないが、伝記を比べて読み、登場人物の相互関係や心情の変化、書き手の違いによる書き表し方の特徴を捉えながら、互いの考えを交流する場面を設定している。

4 評価の観点について

評価の観点については、国語科で行われている「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の五つの観点を用的にしている。

なお、国語への関心・意欲・態度の観点については、各設問で取り上げた実際の授業場面や実生活での活用場面などにおいて、その観点が深く関与している場合に設定した。

Ⅱ 調査問題の解説

A 主として「知識」に関する問題

- 一 次の(1)から(3)までの文の——部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。
- (1) 音楽室に 移動 する。
- (2) すばらしい 演技 におどろく。
- (3) むだを 省 くようにする。
- 二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましょう。
- (1) 庭に うめ の木を植える。
- (2) カラスの数が ひじょう に多い。
- (3) 部屋の おんど を記録する。

1 出題の趣旨

学年別漢字配当表の第五学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる。

第五学年までに習得した漢字を文の意味に沿って正しく読んだり書いたりする問題である。

ここでは、既習の漢字の定着状況をみるために、「第三学年（「動」、「温」、「度」）や第四学年（「省」、「梅」）、第五学年（「移」、「演」、「技」、「非」、「常」）の配当漢字を取り上げた。文の意味を理解した上で、漢字を正しく読んだり書いたりすることが求められる。

本問と過去の調査との関連をみると、今回取り上げた全ての漢字はこれまでに問題したものである。（※参考）

漢字を正しく読み、正しく書く力は、表現したり理解したりするために必要な知識や技能であり、漢字を含む語彙の拡充を図るためにも重要である。また、国語科のみならず、各教科等の学習の基盤となる力であり、日常生活に欠かせない知識や技能である。

■学習指導要領における領域・内容

言語事項（第五・六学年）

(1) ア 文字に関する事項

(ア)

第五学年及び第六学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 各設問の正答等

設問一

(1) 正答について

■正答

- (1) いどう
 (2) えんぎ
 (3) はぶ(く)

設問二

(1) 正答について

■正答

- (1) 梅
 (2) 非常
 (3) 温度

3 学習指導に当たって

(1) 当該学年までに配当されている漢字を確実に習得する

学年別漢字配当表の第五学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりするとともに、文や文章の中で適切に使うようにすることが重要である。そのためには、漢字の音訓、へんやつくりなどの構成について正しく理解できるように指導することが大切である。また、学年別漢字配当表を一覧表やカードにし、それらを随時活用しながら書いた文や文章の中で漢字を正しく使っているかどうかを確認できるように指導することが必要である。

(2) 語彙の拡充を図り、漢字として正しく表記する

学年の進行に合わせて語彙の拡充を図り、獲得した語彙を漢字として正しく表記することが重要である。そのためには、漢字仮名交じり文である日本語の文章の中で漢字が果たしている役割を理解し、文の中の意味と結び付けながら漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。特に、同音異義や同訓異義の漢字に気を付けて、漢字がもつ意味を考えながら正しく表記するように指導することが必要である。

(※参考) 過去の調査との関連

| 設問番号 | 実施年度(実施学年) | 正答率(%) |
|------|------------------------------|--------------|
| 一(1) | 平成十三年度(第五学年) 平成十五年(第五学年) | 九六・一 九六・一 |
| 一(2) | 平成十六年度(第五学年) | 八七・五 |
| 一(3) | 平成十六年度(第四学年) 平成十六年度(第五学年) | 五〇・五 七四・六 |
| 二(1) | 平成五年度(第五学年) 平成十三年(第五学年) | 八一・九 八六・二 |
| 二(2) | 平成十六年度(第六学年) | 五七・一 |
| 二(3) | 昭和三十一年度(第六学年) | 五五・六 |

〔過去の調査〕

昭和三十一年度全国学力調査
 平成五・十三・十五年度小・中学校教育課程実施状況調査
 平成十六年度特定の課題に関する調査

2

長い文を読むときには、次の例のように、主語と述語との関係に注意すると意味が分かりやすくなります。

部1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

(例)

みんなが植えた木は、どんどん育った。

(主語) (述語)

わたしは、アサガオの青い花が次から次へとさいいて、やがて黒い色をした。 ¹
 たくさんの種が、できるまでの様子を毎日観察した。 ²
³ ⁴

※解答は、解答用紙に書ましよう。

わたしは

花が

1

出題の趣旨

文の中における複数の主語と述語とを照応することができるかどうかをみる。

複雑な構成の文を読み、文の中における複数の主語に対する述語として適切なものを、それぞれ選択する問題である。

ここでは、複数の主語と複数の述語とが含まれる長い文を取り上げた。『わたしは、』『観察した。』『花が、』『さいいて、(さいいた。』『種が、』『できる。』のように、それぞれの主語と述語とを照応させることが求められる。

文の中における主語と述語との関係に注意することは、文の構成を理解するために最も基礎となるものである。複雑な構成の文の意味を的確に理解するためには、その中に含まれる複数の主語と述語とを照応しながら読みたり書いたりすることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

言語事項(第一・二学年)

(1) エ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

- ア わたしは ↓ 4 観察した
イ 花が ↓ 1 さいて

■解説

○ アサガオの花が咲いて種ができる、そうした様子を『わたしは、』と『観察した。』という一文である。文全体の主語が「わたしは」であり、述語が「観察した」であることを捉える必要がある。さらに、観察した対象や時間の経過としては、アサガオの青い花が咲き、その後花が枯れて、黒い色をした種ができるという一連の様子であることを『次から次へと』『やがて』などに着目して捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢2の「した」は、「種」の状態を表す修飾語句の一部であり、選択肢3の「できる」は、「種」の述語に当たるので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 様々な文の主語と述語との関係を押さえる

単文や重文、複文など、様々な文の主語と述語との関係を押さえ、文の意味を的確に理解することが重要である。そのためには、一つの主語が複数の述語に係る文、複数の主語と複数の述語を含む文などを取り上げ、それらの主語と述語との関係を明確に押さえることができるように指導することが大切である。その際、主語と述語との関係を明確にすることが文の意味を正確に理解することにつながるということを意識できるように指導することが必要である。

(2) 文の構成に関する理解を深める

文の中で、語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかについての理解を深めることが重要である。そのためには、学年の発達段階に応じ、第一・二学年では主語と述語との関係、第三・四学年では修飾と被修飾との関係を理解できるように指導することが大切である。加えて、第三・四学年では、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」などの観点や要素について、初歩的な理解ができるように指導することが必要である。第五・六学年では、文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成を理解できるように指導することが大切である。

3

次は、体育委員の村山さんが学校の人々にすすめる遊びについて、スピーチをしたものです。村山さんのスピーチを内容の取り上げ方の面から見ると、どのようなところがよいですか。その説明として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

〔村山さんがスピーチをした内容〕

わたしは、長なわとびをすすめます。長なわとびは、学級のみんながいっせいに楽しむことができる遊びで、人数が多ければ多いほど盛り上がります。長なわとびの遊び方は、学年に合わせていろいろなどび方や回し方をくふうすることができます。上の学年では、とび回数を競い合うようにすると、目標に向かってみんなで力を合わせることができます。下の学年では、長なわをゆっくりと左右にゆらしながらとびようにすると、苦手な人も楽しく遊ぶことができます。ぜひ学級全員で遊んでみてください。

- 1 実際に遊んだことがある人の感想や意見を取り上げているところがよい。
- 2 多くの人が楽しむことができる方法を取り上げているところがよい。
- 3 みんなで遊ぶときのきまりや約束ごとを取り上げているところがよい。
- 4 自分が成功したり失敗したりしたことを取り上げているところがよい。

1 出題の趣旨

相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話すことができるかどうかをみる。

相手や目的に応じて、事物を薦めるスピーチの内容の取り上げ方として適切なものを選択する問題である。

ここでは、全校児童を対象として、長なわとびを薦めるという目的に応じたスピーチを行う場面を設定した。多くの人が長なわとびをしたいという気持ちになるように、内容を選んで話しているというよさを捉えることが求められる。

事物などを推薦するスピーチでは、その事物などの特徴を深く理解し、そのよさが相手に伝わるように内容や構成を工夫しながら話すことが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと(第三・四学年)

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

■評価の観点

話す・聞く能力

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

選択肢2 多くの人が楽しむことができる方法を取り上げているところがよい。

■解説

○ 学級のみんなが一斉に楽しむことができる遊びとして、長なわとびを薦めている。多くの人が長なわとびを楽しむことができるように、上の学年では跳ぶ回数を競い合う方法をとり上げ、下の学年では長なわをゆらしながら跳ぶ方法を取り上げていることを、スピーチのよさとして捉える必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢1、3、4は、村山さんのスピーチの内容の取り上げ方として当てはまらないので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 目的や意図に応じて話す内容を工夫する

スピーチをするときは、目的や意図に応じた内容になるように工夫することが重要である。そのためには、説明や報告、紹介や案内、推薦などの目的や意図に応じた取材活動になるように指導することが大切である。また、取材活動で得た内容を、改めて目的や意図に照らして、必要か否かを吟味することができるよう指導することが必要である。

(2) 相手意識をもって話す

話す能力を高めるためには、目的意識に加えて、相手意識をもつことが重要である。相手意識は、①取材する段階、②話の内容や構成を工夫する段階、③スピーチ原稿を作成する段階、④音量や速度、抑揚や間の取り方などの音声化の仕方を工夫する段階の全てにおいて必要になる。相手がどのような興味や関心、要求をもっているのかを探り、それらに応じて、話の内容や構成、音声化の仕方を工夫するように指導することが大切である。

(3) 事物や人物などを推薦する

推薦では、推薦者が、対象の特徴を深く理解し、そのよさを相手に説明することが求められる。推薦する対象としては、事物や人物などを取り上げることになる。それらの対象について十分調べ、そのよさを整理し、相手の要求や目的も考慮しながら、推薦したい点をまとめることが重要である。また、話すときには、相手にそのよさが伝わるように、理由を説明したり、エピソードとなる事例を挙げたり、図解したりするなどして印象付けるように話すことが必要である。そのためには、推薦するまでに至った経緯や推薦した理由を中心とした話の構成を考えたり、推薦したい気持ちを伝えるような言葉を選んだりできるように指導することが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、「A 話すこと・聞くこと」（第五・六学年）の言語活動例として、「事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること」を設定している。

4

次は、中西さんが放送委員としての一年間の目標について書いた文章です。ア
イ・ウの中に入るふさわしい言葉を、あとの1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

【中西さんが書いた一年間の目標】

わたしは、放送委員としての一年間の目標を二つ立てた。

一つは、みんなが時間に合わせて学校生活を送ることができるように、放送をする時こくをしつかりと守ることである。ア

こまめに時計を見て確かめようと思う。

イ、放送を聞いている人に、内容を正しく伝えることができるように、話し方をくふうすることである。そこで、放送をする前に、原こうを読むことや間の取り方を練習しようと思う。

ウ、二つの目標の達成を目指して、一年間努力していきたい。

1 以上のように

2 その理由は

3 そのために

4 反対に

5 もう一つは

1 出題の趣旨

文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割を考えながら、接続関係を整えて書くことができるかどうかをみる。

伝えたい内容が明確になるように、文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割の関係を考えながら、接続関係が整うように適切な言葉をそれぞれ選択する問題である。

ここでは、放送委員としての一年間の目標について考えたことを文章に書く場面を設定した。それぞれの文や段落に書かれている内容を押さえ、文と文、段落と段落との接続関係が整うような接続語句を捉えることが求められる。

目的や意図に応じて、文章全体の組立ての効果を考えて書くためには、文と文、段落と段落とをつなぐ接続語句が文章の論理的な関係を整える上で大切な役割を果たしていることを理解することが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと(第五・六学年)

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。

言語事項(第三・四学年)

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項

(イ) 文章全体における段落の役割を理解すること。

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

■評価の観点

書く能力

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

- ア 3 そのために
- イ 5 もう一つは
- ウ 1 以上のように

■解説

- 中西さんは、放送委員としての一年間の目標を二つ掲げ、それらの目標を実現するための方法を書いている。目標及び方法についてそれぞれの内容を押さえ、文と文、段落と段落との関係を整える必要がある。
- 第二の形式段落は、一つめの目標及びそれを実現する方法を書いている。段落の中の一文めには目標の内容、二文めにはその目標を実現するための方法を書いている。したがって、一文めと二文めをつなぐアには、「そのために」を選ぶことが適切である。
- 第三の形式段落は、二つめの目標及びそれを実現する方法を書いている。段落の中の一文めには目標の内容、二文めにはその目標を実現するための方法を書いている。これは、第二の形式段落の構成と同様のものである。したがって、第二の形式段落と第三の形式段落をつなぐイには、「もう一つは」を選ぶことが適切である。
- 第四の形式段落は、二つの目標に対する今後の抱負を一文で書いている。これは、第一から第三の形式段落の内容をまとめたものである。したがって、第四の形式段落の冒頭にあるウには、「以上のように」を選ぶことが適切である。

(2) 誤答について

■解説

- 文と文、段落と段落との関係を全て適切に押さえていないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 文と文、段落と段落との接続関係を整える

文と文、段落と段落との接続関係を整え、論理的な文章を書くことが重要である。そのためには、文章全体を通して、中心となる内容を明確に記述したり、段落相互の関係からみて中心となる段落を位置付けたり、各段落の中で中心となる文の内容を明確にしたりすることができるよう指導することが大切である。その上で、累加や並列といった接続関係や結論とその理由や根拠といった配列関係に注意して、文と文、段落と段落との接続関係が整った文章になるように指導することが必要である。

(2) 相手が理解できるように文章全体の構成を工夫する

自分が考えていることを明確にすることだけでなく、相手が書き手の考えを理解できるように文章全体の構成を工夫することが重要である。そのためには、文章全体の構成として、冒頭部に統括する場合の「頭括型」、終結部に統括する場合の「尾括型」、冒頭部・終結部の双方に統括する「双括型」などがあることを理解し、文章を書く目的や意図に応じて、全体の構成を効果的に工夫できるように指導することが大切である。

5 次は、新聞委員の北川さんが「一年生をむかえる会」の様子を伝えた、学校新聞の記事の下書きの一部です。――部を「一年生が」を主語にして書きかえます。あとの□の中に入るふさわしい内容を、意味を変えないようにして書きましよう。

〔北川さんの下書きの一部〕

元気いっぱい一年生 みんなの仲間入り！

四月十二日、きれいにかざった体育館で「一年生をむかえる会」がありました。進行係の合図のあと、六年生が、一年生の手を引いて、体育館に入場してきました。体育館

いっばいにひびきわたるたくさんのはく手。九十二人の一年生は、みんなにここに顔。

（下書きが続く）

※解答は、解答用紙に書きましよう。

一年生が、

、体育館に入場してきました。

1 出題の趣旨

目的や意図に応じ、表現の効果を考えて書き換えることができるかどうかをみる。

中心となる人物を主語にし、その人物の行動に焦点が当たるように書き換える問題である。

ここでは、新聞委員が一年生を迎える会の様子について書いた学校新聞の記事の下書きを推敲する場面を設定した。前後の文脈を捉え、一年生と六年生との関係を適切に捉えながら、一年生を主語にした受動態の文に書き換えることが求められる。

本問と過去の全国学力・学習状況調査（以下、全国調査という。）との関連をみると、平成二十年度の「国語A」において、文の表現の効果を考えて、文章を推敲する問題を取り上げている。（※参考）表現の効果を考えて書くためには、相手や目的に応じているか、自分の考えを明確に記述しているかなどの観点から表現を検討することが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと（第五・六学年）

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

言語事項（第五・六学年）

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

書く能力

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答例

○ 六年生に手を引かれて

■解説

○ 北川さんは、学校新聞の下書きとして、「一年生をむかえる会」における一年生と六年生の様子をそれぞれに焦点を当てながら書いている。この下書きを一年生の行動に焦点が当たるように推敲するために、一年生を主語にした文に書き換える必要がある。

○ 一年生を主語にして「部を書き換える場合、「(一

年生が)六年生に手を引かれて」のように、一年生と六年生の様子について、その関係を押さえながら書き換えることが適切である。ただし、「六年生」に続く格助詞として、「から」などのように解答しているものも正答とする。また、手を引かれている様子について、「手を引かれながら」などのように解答しているものも正答とする。

したがって、一年生を主体とした受動態の文のうち、手を引かれている様子が明確であるものを正答とする。

〔具体例は、解答類型1を参照のこと〕

(2) 誤答について

■解説

○ 「六年生と手をつないで」のように、一年生と六年生の様子が不明確なもの、「六年生の手を引いて」のように、一年生と六年生との関係を変えているものは誤答とする。〔具体例は、解答類型2を参照のこと〕

3 学習指導に当たって

(1) 表現の効果を確かめたり工夫したりする

書く目的や意図に応じ、自分の考えが明確になっているかを読み手の立場から客観的に評価することが重要である。そのためには、書いた文章を互いに読み合い、文章の間違いを直すことのみならず、中心となる事柄が読み手に明確に伝わっているか、題材の捉え方、題材の集め方や選び方は適切かなどを検討することができるような場面を設定して指導することが必要である。

(2) 主体と対象との関係を明確にする

事実や出来事を説明したり、見聞や体験を報告したりする文章を書く場合、誰の目を通し、誰の行為や考えを中心に書くのかを明確にする必要がある。主体となる人物は、書き手であったり、中心となる人物であったりする。それに応じて対象となる事柄や人物との関係を明確にする必要がある。例えば、「何(誰)が、何(誰)を、どうした」、「何(誰)が、何(誰)を、どうした」とを、誰は：と考えた」など、主体と対象との関係を明確にできるように指導することが大切である。とりわけ、一文が長くなつてしまい、意味が不明確になることがあるので、相手に正しく意味が伝わるかどうかを検討するように指導することが重要である。

(※参考) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

| 問題番号 | 問題の概要 | 正答率(%) |
|---------------|-------------------------------|--------|
| H A20 3 | 文章を読み返して、書き直したほうがよい理由と方法を選択する | 三四・〇 |

新聞記事を効果的に読む

6 次は、小池さんが住む糸野市で行われた、「図書祭り」について書かれた新聞の記事です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

30 地域 14版 2011年(平成23年)3月22日(火曜日)

A 読書の楽しさ広がる
B 糸野市 図書祭り

本の街、糸野市で19日から8日間、「図書祭り」が開催された。会場となった糸野市立図書館周辺では、祭りの名物となっている朗読大会や登場人物当てクイズなどのさまざまなイベントが開かれ、盛り上がりがあった。

C 今年で3回目を迎える「図書祭り」には、市内外から昨年を約300人上回る約1200人もの参加者があり、例年以上のにぎわいを見せた。会場周辺の道路は歩行者専用になり、本や作家の色紙を売る店が並んだ。地域交流館では、午前と午後に分け、登場人物当てクイズなどが催された。

特に人気があったのが朗読大会。プロの声優・顔負けの朗読をした同市の小畑周二さん(12)は、「みんなから大きな拍手をもらってとてもうれしかった。これからいろいろな本の朗読に挑戦したい」と笑顔。

「今年、市立図書館の利用者が少なくなっているが、この祭りを通じて、読書をする楽しさをいろいろな形で感じてもらえたらと思う。このことが利用者数の増加につながればうれしい」と声をはげませていた。

一 小池さんは、この記事の中の**A**・**B**・**C**の三つの関係について考えました。三つの関係の説明として、ふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 記事の中で最も伝えなかった内容を **A** で示し、それに賛成する考えを **B**、反対する考えを **C** に書いている。
 - 2 記事として取り上げた内容の中で最も古い事実を **A** で示し、次に起こった事実を **B**、その次を **C** と順番に書いている。
 - 3 記事の中で問題となっている事実を **A** で示し、それを解決するための具体的な方法を **B** と **C** に書いている。
 - 4 記事の内容を短い言葉で見出しにして **A** で示し、その内容を **B** から **C** へとだんだんくわしく書いている。
- 二 小池さんは、この記事を読んで、糸野市立図書館において問題となっている事実が示されていることに気付きました。それは、どのような事実ですか。本文中の言葉を使って書きましょう。

1 出題の趣旨

必要な情報を得るために、新聞記事を効果的に読むことができるかどうかをみる。

新聞記事を読み、その記事の見出し・リード・本文の関係についての説明として適切なものを選択したり、読者の目的に応じて必要な情報を取り出したりする問題である。

ここでは、地域の情報を発信する新聞記事の中から「図書祭り」に関する記事を読んで、全体の構成を捉えたり、本文の中から問題となっている事実を取り出したりする場面を設定した。見出しで記事の内容を端的に示し、リードから本文へと次第に詳しく書かれていくという構成を理解することが求められる。また、問題となっている事実が企画者へのインタビューの中に含まれていることを捉えることが求められる。

新聞記事の内容を的確に捉え、必要な情報を得るためには、いわゆる逆三角形の構成と呼ばれる、見出し・リード・本文の三つの関係を理解することが重要である。その上で、読者の目的に応じて記事の概要を読み取ったり、詳細な情報を取り出したりするなど、効果的な読み方を工夫することが必要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと(第五・六学年)

必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

■評価の観点

読む能力

2 各設問の正答等

設問一

(1) 正答について

■正答

選択肢 4 記事の内容を短い言葉で見出しにして **A** で示し、その内容を **B** から **C** へとだんだんくわしく書いていく。

■解説

○ **A** (見出し) には、「図書祭り」が開催され、読書の楽しさが広がったという記事全体を端的にまとめた内容、**B** (リード) には、「いつ」、「どこで」、「何が」行われたかという「図書祭り」の概要、**C** (本文) には、「図書祭り」の詳細な内容と参加者及び企画者の感想などが書かれている。**A** から **B**、**B** から **C** へと次第に内容が詳細になっているという構成を理解する必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢 1、2、3 は、この新聞記事の構成の説明として当てはまらないので誤答である。

設問二

(1) 正答について

■正答

○ 年々、市立図書館の利用者数が少なくなっていること。

■解説

○ **A** (見出し)・**B** (リード)・**C** (本文) は、全て事実に基づいた内容を伝えている。しかし、**A** 並びに **B** は、**C** の要約であり、それらに表れていない詳細な事実については、**C** に注目する必要がある。さらに、問題となっている事実を取り出す際は、**C** の中から事実と意見とを区別し、企画者へのインタビューの内容に着目する必要がある。

○ 糸野市立図書館において問題となっている事実としては、「年々、市立図書館の利用者数が少なくなっていること」のように、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「どうした(どうなった)」という表現を全て取り出すことが適切である。ただし、「いつ」を表す言葉である「年々」や、「どこで」を表す言葉である「市立図書館」は、触れていなくても問題となっている事実を表現できるため、「利用者数」と「少なくなっている」という言葉、または、それらの意味を変えずに言い換えた言葉を解答していれば正答とする。

(2) 誤答について

■解説

○ 糸野市立図書館において問題となっている事実を、企画者へのインタビューの内容以外から取り上げているものは誤答とする。

○ 「利用者数」と「少なくなっている」については、逆の視点から表現し、『「利用しない人の数」が「増えた」』のように解答しているものも正答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 新聞記事の構成を理解し、必要な情報を取り出す

新聞記事の構成を理解し、目的に応じて必要な情報を取り出すことが重要である。そのためには、新聞記事を教材として取り上げ、見出し・リード・本文などの新聞記事のもつ特徴的な構成を理解し、目的に応じて、記事の概要を押さえたり、詳細な情報を得たりすることができるように指導することが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、「C 読むこと」（第五・六年）の言語活動例として、「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」を設定している。

(2) 新聞の編集の仕方や記事の書き方に注意して読む

新聞の編集の仕方や記事の書き方に注意し、書き手の意図を推論することが重要である。そのためには、記事の中の活字や図、写真などの大きさや行数、配置などの割り付けなどに注目するとともに、記事の内容を補説する解説やコラム、社説などがあるという特徴を理解できるように指導することが大切である。また、これらの特徴を押さえた上で、記事と記事とを関係付けて読み、書き手が読者に伝えたかったことを推論することができるように指導することが必要である。

(3) 目的に応じて新聞記事を活用する

新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして制作され、多岐にわたる内容が取り上げられていることを知り、それらを目的に応じて活用することが重要である。そのためには、テーマや題材に合わせて複数の新聞記事を比べて読み、書き手の立場や意見の違いなどについて検討することができるように指導することが大切である。

7 次は、ある野原でのちようちよとハンカチの様子を表した、「ちようちよとハンカチ」という詩です。野口さんは、この詩を読んだ感想をノートにまとめました。
 ア の中に入るふさわしい言葉を、詩の中からめき出しましょう。



(宮澤章二「知らない子」による)

【野口さんがまとめた感想】

ちようちよとハンカチは、それぞれに相手
 を「しろいもの」として見ている。その
 上で、ちようちよは、ハンカチのことを
 上から見て、「ア」
 と思っっている。一方、ハンカチは、ちよう
 ちよのことを下から見て、「かぜのことも
 のハンカチ」と思っっている。
 ちようちよとハンカチがどちらも白い
 色をしていたことで、おたがいに仲間
 だとかんちがいをしているところがおも
 しろい。

1 出題の趣旨

詩の情景について、叙述を基に想像しながら読むことができるかどうかをみる。

詩に描かれた情景を叙述を基に想像しながら読み、感想の理由の一部となる叙述を抜き出して書く問題である。

ここでは、詩を読み、感想をまとめる場面を設定した。「(上から) みつけた」と「(下から) みあげた」、「おおきな」と「ちいさな」、「(動かずに) おちてる」と「(動いて) とんでく」などの対比表現を押さえ、「ちようちよ」と「ハンカチ」の関係を整理しながら読むことが求められる。

詩に描かれた情景を叙述を基に想像しながら読むためには、比喩や反復などの表現の工夫や、倒置や対句などの構成上の工夫の中から、特徴的な技法に着目して解釈することが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと(第三・四学年)

ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

言語事項(第五・六学年)

(1) ウ 語句に関する事項

(エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちこと。

■評価の観点

読む能力

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答例

- とべないちようちよ

■解説

○ 野口さんは、詩の感想の理由として、同じ場に居合わせた「ちようちよ」と「ハンカチ」が「白い色」をしていたことで、互いに仲間であると勘違いしていることを挙げている。野口さんの感想の理由の一部を叙述に即して適切に捉える必要がある。

○ 【野口さんがまとめた感想】には、「ハンカチ」は「ちようちよ」のことを「かぜのこどものハンカチ」と思っていると書いている。このことに対応させ、「ちようちよ」は「ハンカチ」のことを「とべないちようちよ」と思っていると書くことが適切である。ただし、「とべない」は、「ちようちよ」の修飾語であり、触れていなくても対象である「ちようちよ」であることを断定できるため、「ちようちよ」という言葉を解答していれば正答とする。

○ ちようちよの心内語である「あれあれ おおきな しろいものが おちてる きつと とべない ちようちよだね…」のうち、「おおきな」、「しろい」、「おちてる」、「きつとだね」など、「ちようちよ」を修飾し、事実に反していない言葉を加えて解答しているものも正答とする。

(2) 誤答について

■解説

○ 「ちようちよ」に触れないで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 叙述を基に想像しながら読む

詩に描かれた情景は、叙述を基に想像しながら読むことが重要である。そのためには、詩の技法として、比喩や反復などの表現の工夫や、倒置や対句などの構成上の工夫があることを理解できるように指導することが大切である。また、詩の中でどの技法が特徴的に使われているかを捉え、その技法によってどのような情景が描かれ、読者にどのような表現効果をもたらしているかなどを理解できるように指導することが必要である。

(2) 様々な視点から詩を読み深める

一編の詩を解釈するだけでなく、複数の詩を読み、様々な視点から読み深めることが重要である。そのためには、同じ題材を違う作者が書いた詩や、同じ題材を視点を変えて書いた詩などを比べて読むように指導することが大切である。その際、情景の捉え方や表現の仕方などについて思ったことや考えたことを交流し、考えを深めるように指導することが必要である。

4

出典等

宮澤章二^{みやざわしやうじ}「ちようちよと ハンカチ」『知らない子』一九七五年十二月 国土社) による。

8

国語辞典では、言葉が五十音順に並んでいます。また、形が変わる言葉は、言い切りの形で出ています。次の問いに答えましょう。

一 次の1から4までの言葉を国語辞典で調べます。最初に出てくる言葉を選んで、その番号を書きましょう。

- 1 電柱
2 鉄道
3 鉄筋
4 電車

二 「明日の試合にそなえて早くねる」の中の——部の言葉について調べます。国語辞典では、どのような言葉にして調べるとよいですか。ひらがな四文字で書きましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

1 出題の趣旨

国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解することができ
るかどうかをみる。

国語辞典に掲載されている語句の配列の順序として適切なものを選択したり、国語辞典を利用して語句を調べる際に終止形に変えたりする問題である。

ここでは、国語辞典に最初に出てくる語句を選択したり、文の中の語句を終止形にして調べたりする場面を設定した。清音、濁音、拗音、促音、撥音を含めて、適切な配列の順序を考えることが求められる。また、語形が変わる語句は、終止形に変えることが求められる。

本問と過去の調査との関連をみると、設問一で今回取り上げた語句は、これまでに出题された語句と重複するものである。また、設問二では、語形が変わる語句を終止形に変える問題を同様に取上げている。（※参考）

国語辞典の使い方方を正しく理解することは、国語科のみならず、各教科等や日常生活においても重要な能力である。

■学習指導要領における領域・内容

言語事項（第三・四学年）

(1) エ 語句に関する事項

(イ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解すること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

設問一

(1) 正答について

■正答

選択肢 3 鉄筋

■解説

○ 国語辞典を利用して語句を調べるときは、五十音順に語句の一字めから順に検索していく必要がある。また、通常、濁音、半濁音は、清音の後に掲載され、拗音、促音、撥音は、清音の順序に準じて掲載されている。
したがって、四つの語句は、「鉄筋」、「鉄道」、「電車」、「電柱」の順に掲載されている。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢 1、2、4 は、いずれも国語辞典での配列が選択肢 3 「鉄筋」のあとになるので誤答である。

設問二

(1) 正答について

■正答

そなえる

■解説

○ 「そなえ」は、「そなえる」の連用形になる。国語辞典を利用して語句を調べるときは、常体の終止形にする必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○ 「そなえ」を終止形にしていないものは、誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 国語辞典の全体の仕組みや構成についての知識をもつ

国語辞典の全体の仕組みや構成についての知識をもつことが重要である。そのためには、実際に国語辞典を利用して、語句がどのような配列になっているかを確認できるように指導することが重要である。例えば、「はん」、「ばん」、「ばん」などの語句は、清音、濁音、半濁音の順で配列されている。さらに、同音異義語や同訓異義語の場合は、言葉のもつ複数の意味が併記して記載されていることなども押さえるように指導することが大切である。

(2) 辞書を積極的に利用する習慣を付ける

国語科のみならず、各教科等の調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用する習慣を付けることが重要である。そのためには、必要なときにいつでも辞書が手元に取り、使えるような言語環境をつくることなどが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（第三・四学年）の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」として、「辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること」を設定している。

（※参考）過去の調査との関連

| 設問番号 | 実施年度（実施学年） | 正答率（％） |
|------|------------------------------|--------------|
| 一 | 平成十三年度（第五学年） 平成十五年度（第五学年） | 四六・五 五二・四 |
| 二 | 平成十三年度（第六学年） 平成十五年度（第六学年） | 八九・六 九一・八 |

〔過去の調査〕

平成十三・十五年度小・中学校教育課程実施状況調査

9

次は、松本さんがお世話になった花屋の人に出す、お礼の手紙の下書きの一部です。清書をするとき、この下書きのどの言葉を、どのように書き直せばよいですか。その説明としてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

〔松本さんの下書きの一部〕

先日は、花のなえの植えかえについて、いろいろなお話をしてくださって、本当にありがとうございました。とても、^イ勉強になった。植えかえたあとの水やりの仕方などに気を付けないと、根がしっかりはらないことが、^ウあるということについてよく分かりました。^エ
 ♪ (下書きが続く) ♪

- 1 — 部アは、大きな言葉づかいになっているので、「ありがとうございます」としたほうがよい。
- 2 — 部イは、ていねいな表現になっていないので、「勉強になりました」としたほうがよい。
- 3 — 部ウは、相手に対して失礼な表現になっているので、「あります」としたほうがよい。
- 4 — 部エは、自分の考えを明確に言い切っていないので、「分かった」としたほうがよい。

1 出題の趣旨

相手や目的に応じ、敬体と常体との違いに注意して書くことができるかどうかをみる。

敬体と常体との違いに注意し、お礼の手紙の下書きを書き直す説明として適切なものを選択する問題である。

ここでは、花屋の人に出すお礼の手紙の下書きを推敲し清書する場面を設定した。手紙を出す相手が敬体を使って文章を書かなければならない目上の人であるということを押さえ、書き直す理由を適切に捉えることが求められる。

お礼の手紙を書くときには、相手や目的に応じ、敬体と常体との違いに注意して、表現を統一して書くことが重要である。ただし、一つの言葉に同じ種類の敬語を重ねて使ってしまう二重敬語などに注意して、適切な表現にすることが必要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと(第三・四学年)

ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。

言語事項(第三・四学年)

(1) カ 言葉遣いに関する事項

(ア) 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、

文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

■評価の観点

書く能力

言語についての知識・理解・技能

2 問題の正答等

(1) 正答について

■正答

選択肢2

部イは、「ていねいな表現になっていないので、「勉強になりました」としたほうがよい。

■解説

○ 敬体を使って文章を書かなければならない目上の相手に対し、常体を用いた表現をしている。ここでは、全ての文末表現に敬体を用いることを捉える必要がある。ただし、部ウは、文の中に取り込まれた表現であり、相手に対する意味をもっていないので、常体を用いることが適切である。

(2) 誤答について

■解説

○ 選択肢1、3、4は、手紙を書き直す部分とその説明としてふさわしくないので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 敬体と常体とを適切に使い分ける

敬体と常体との違いに注意し、それぞれを適切に使い分けられるようにすることが重要である。敬体と常体のそれぞれの表現の効果を押さえた上で、これらが混用されている文を例示し、書き直す箇所を指摘するなどして、適切に使い分けられるように指導することが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、「A話すこと・聞くこと」（第一・二学年）の「話すこと」の指導事項として、「丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと」を設定している。また、同様に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（第一・二学年）の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」として、「敬体で書かれた文章に慣れること」を設定している。

(2) 相手や目的などに応じ、敬体を用いて話したり書いたりする

相手や目的、場面や状況などに応じ、敬体を用いて話したり書いたりすることが重要である。そのためには、「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」と関連させながら指導する必要がある。「A話すこと・聞くこと」においては、公的な場面でスピーチをする際、敬体を用いて話すことができるように指導することが大切である。また、「B書くこと」においては、礼状や依頼状などを書く際、書く相手や手紙の書式に合わせて敬体を使って書くことができるように指導することが大切である。

調査問題の解説

B 主として「活用」に関する問題

1 目的や意図に応じて計画的に話し合う〈学級の旗〉

1 六年二組の池上さんの学級では、「友情・協力」という学級目標の達成につながるような学級の旗を作るようになりました。次は、学級の旗のデザインを決めるために話し合っている様子の一部で、記録係が発言などをまとめた黒板の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【池上さんの学級で話し合っている様子の一部】

池上(司会) ♪(議題についての説明) ♪
 まず、黒木さんと竹中さんに提案してもらいます。二人の提案をもとに話し合いを進めていきましょう。それでは先に黒木さん、次に竹中さんの順でお願いします。
 黒木 わたしが考えた旗は、「黒板にはった上のものです。学級目標の「友情・協力」を強く意識できるように、この言葉を大きく書くように考えました。
 竹中 ぼくの案は下の旗です。「友情・協力」という学級目標の達成のために、「声をかけ合う」を合い言葉にしたらいと思います。特に、男女が仲良く協力し合うことが大切だと思つて、男女二人の顔の絵を入れました。
 池上(司会) 黒木さんの提案と竹中さんの提案に共通する点は、旗の中に大切にしたい言葉を書くということです。ただ、その言葉が学級目標そのものか、それとも合い言葉にするかという点があります。また、絵を入れるかどうかもちがう点です。旗の中に言葉を書くという点は、決定してもよいですか。
 (右下に続く)

全員 はい。
 池上(司会) それでは、どのような言葉を書くか、絵を入れるかどうかという「2」のことについて話し合っています。では、意見を述べてください。
 西野 ぼくは、旗に書く言葉は、「黒木さんが提案をしたとおり、学級目標の「友情・協力」がよいと思います。学級目標の意味を考えて行動するようになるからです。
 小林 村ははは竹中さんの声をかけ合おうという言葉をのうがよいと思います。学級目標を達成するための行動が具体的に分かるからです。
 青山 ぼくは、男女二人の顔の絵を入れることに賛成です。それに加え、言葉を絵と並べて関係付けたいと思います。にせしめる行、その中に「おりがどうや」「手伝う」と、かけ合いたい言葉を書くのはどうでしょう。
 原田 青山さんの意見に賛成です。ただ、顔の絵については、学級全員分のほうがよいと思います。一人一人ふき出しを付け、その中に自分が考えたかけ合いの言葉を書くことにします。(右上に続く)

池上(司会) みなさん、黒板を見てください。青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点は、旗に顔の絵を入れ、という点です。ちがう点は、という点です。ちがう点について意見を述べてください。ちがう点について意見を述べてください。
 岩村 賛成があります。この旗は、いつも教室のかげにはっておくようにするのですか。
 竹中 それは今、話し合わなくてもよいと思います。池上(司会) ちがう点に待つてください。今の岩村さんの質問は、大事なことかもしれない。出したら、池上さん、どうしてそのような質問をしたのですか。
 岩村 行事のときなど、教室の外で旗を使うことも考え、言葉や絵の入れ方も変わるのではないかと考えたからです。
 池上(司会) なるほど。岩村さんは、外で旗を使うことを考える、言葉や絵をどのように入れたらよいと思いますか。
 ♪(話し合いが続く) ♪

【記録係がまとめた黒板の一部】

(議題) 学級の旗のデザインを決めよう
 黒木さんの案
 竹中さんの案
 6年2組
 声
 をかけ合う
 池上(司会) ♪(議題についての説明) ♪
 池上(司会) ♪(議題についての説明) ♪
 池上(司会) ♪(議題についての説明) ♪
 池上(司会) ♪(議題についての説明) ♪

1 記録係は、西野さんの発言を黒板に書きました。同じように書き方で、部アの小林さんの発言を書きます。【記録係がまとめた黒板の一部】の部アの中に入るふさわしい内容を、「〜から(理由) ♪がよい(意見)」という文の形にして一文で書きましょう。

2 司会の池上さんは、出された発言に合わせて話し合いを進めています。次の問いに答えましょう。

(1) の発言は、青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点とちがう点を整理したものです。部ア・部イの中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて発言の前後の言葉にならるようにしてそれぞれ書きましょう。

(条件)

- 部ア・部イ それぞれ、次の部ア・部イの四つの言葉の中から二つずつ使って書くこと。ただし、部ア・部イの四つの言葉は、一回しか使うことができません。
- 部ア・部イ それぞれ二十文字以上、三十文字以内にまとめて書くこと。

- 男女二人
- ふき出し
- 学級全員分
- かけ合いたい言葉

※左の解用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点は、旗に顔の絵を入れ、

部ア 30字

部イ 30字

という点です。ちがう点は、

部ア 20字

部イ 20字

という点です。

- (2) 部アは、どのようなねらいで発言していますか。その説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 これまでにでてきたいくつかの意見を一つにまとめようとしている。
 - 2 話し合いが進まないため、考えをまとめる時間を与えようとしている。
 - 3 話し合いをする上で大切にしたい約束を確かめようとしている。
 - 4 発言の理由を聞いて、話し合う必要があるのかを考えようとしている。

1 出題の趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、司会や記録などの役割を果たしながら計画的に話し合うことができるかどうかをみる。

話し合いにおいて、話し手の意図を捉えながら聞き、記録として発言の要点を黒板に書きまとめたり、司会として共通点や相違点を整理したり、発言の理由を確認したりする問題である。

ここでは、学級目標の達成につながるような学級の旗のデザインを決めるために、二つの提案を基に話し合う場面を設定した。記録としては、黒板に書く際の形式に合わせ、発言の要点を簡潔にまとめることが求められる。司会としては、公平な立場で意見の共通点と相違点を整理したり、発言の理由を確認したりしながら話題に沿って計画的に話し合いを進めることが求められる。

意見を出し合い、一つにまとめていく協議においては、目的意識を共有した上で、話し手の意図を捉えて聞いたり、それを踏まえて自分の考えを明確に伝えたりしながら、計画的に話し合いを進めることが大切である。その際、司会や記録などの役割を果たすことは重要である。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一

(1) 趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、意見と理由をまとめることができるかどうかをみる。

話し手の意図を捉えながら聞き、意見と理由を形式に合わせてまとめる問題である。

本設問は、発言に含まれる意見と理由を区別し、黒板にまとめる場面を設定した。西野さんの発言の内容を「くから（理由）、くがよい（意見）」という文の形に合わせて、小林さんの発言に含まれる意見と理由を区別してまとめることが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成二十二年度の「国語A」において、文の論理を理解し、目的に応じて書き換える問題を取り上げている。（※参考）

協議を進めていく上で、黒板に記録をまとめていくことは、出された意見を整理し、一つの考えに収束していくための思考を助ける重要な役割を果たす。発言の内容について、意見と理由を区別し、要点を簡潔にまとめることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。
ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

言語事項（第三・四学年）

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項
(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

言語についての知識・理解・技能

(2) 正答について

■正答例

○ 学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから、「声をかけ合う」がよい。

■解説

○ 小林さんの発言に含まれる意見と理由を区別して、「くから（理由）」「がよい（意見）」という文の形にして一文で書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。
① 理由の内容として、「学級目標を達成するための行動が具体的に分かる」ことに触れている。
② 意見の内容として、「竹中さんが提案した『声をかけ合う』という言葉」に触れている。
③ 「くから（理由）」「がよい（意見）」という文の形にして一文で書いている。

○ 西野さんの発言のまとめ方と同じように、意見と理由との関係に注意し、理由を前段に、意見を後段にして「くから（理由）」「がよい（意見）」という一文に書き換える必要がある。小林さんの意見は、「竹中さんの『声をかけ合う』という言葉のほうがよい」ということである。その理由は、「学級目標を達成するための行動が具体的に分かる」ということである。

○ 小林さんの理由の内容として、「学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから」と書くことが適切である。ただし、「学級目標を達成するための」という発言は、触れていなくても理由として成立するため、「行動が具体的に分かる」ということを解答していれば条件①を満たすものとする。

○ 小林さんの意見の内容として、『声をかけ合う』がよい。」と書いていけば条件②を満たすものとする。また、「竹中さんの案がよい。」と解答していても、竹中さんが提案した言葉に賛成しているものと判断できるため、条件②を満たすものとする。

(3) 誤答について

■解説

○ 小林さんの発言に触れていないものや、「くから（理由）」「がよい（意見）」という文の形にしていないもの、一文で書いていないものは誤答とする。また、「竹中さんの言葉がよいと思うから、」のように意見を理由としてまとめたもの、「具体的に分かるから、」のように理由として不十分なものなど、条件を満たさないで解答しているものも誤答とする。

設問二(1)ア・イ

(1) 趣旨

互いの考えの共通点と相違点を考え、司会の役割を果たしながら計画的に話し合うことができるかどうかをみる。

司会として話し合いが計画的に進められるように、互いの共通点と相違点に着目し、意見を整理する問題である。

本設問は、話し合いの中で複数の意見が出されたところで意見を整理し、次の論点につなげる場面を設定した。意見の共通点と相違点を区別し、司会の発言としてまとめることが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成十九・二十一年度の「国語B」において、提案や意見をまとめたり整理したりしながら、計画的に話し合いを進める司会の役割を問う問題を取り上げている。(※参考)

司会の役割を理解し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら、計画的に話し合いを進めるようにすることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと(第三・四学年)

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

ア

(2) 正答について

■正答例

○ 口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉を書く(二十六字)

■解説

○ 青山さんの意見と原田さんの意見を比べ、共通する考えである「口にふき出しを付け、その中にかけ合いたい言葉を書く」ことに触れながら、二十字以上、三十字以内にまとめて書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。

① 口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いている。

② 「口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉を書く」ことに触れている。

③ 二十字以上、三十字以内で書いている。

○ 青山さんは、男女二人の顔の絵を入れることに賛成し、その男女二人の顔の絵の口にふき出しを付け、かけ合いたい言葉を加えることを提案している。これを受けて、原田さんは、顔の絵を入れることとその顔の絵の口にふき出しを付け、かけ合いたい言葉を書くことに賛成している。

したがって、顔の絵を入れ、「口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉を書く」ということを解答していれば条件②を満たすものとする。ただし、顔の絵を入れることは、その中の司会の発言に含まれているため、言及する必要はない。

(3) 誤答について

■解説

○ の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いていないものや、言葉と言葉との関係を誤っているもの、字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。

イ

(2) 正答について

■正答例

○ 顔の絵を男女二人にするか、それとも学級全員分にするか(二十六字)

■解説

○ 青山さんの意見と原田さんの意見を比べ、異なる意見である「男女二人の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか、学級全員分の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか」ということに触れながら、二十字以上、三十字以内にまとめて書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。

- ① の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いている。
- ② 「男女二人の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか、学級全員分の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか」ということに触れている。
- ③ 二十字以上、三十字以内で書いている。

○ 青山さんは、男女二人の顔の絵を入れることに賛成している。一方、原田さんは、学級全員分の顔の絵を入れることを提案している。

したがって、「顔の絵を男女二人にするか、それとも学級全員分にするか」ということを解答していれば条件②を満たすものとする。

○ 前述の他に、次のような解答も条件②を満たすものとする。ただし、四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いていない場合は、条件①を満たさないものとする。

・ 「ふき出し(または、かけ合いたい言葉)」を男女二人にするか、学級全員分にするか」ということに触れて解答しているもの

↓右の場合は、顔の絵を男女二人にするか学級全員分にするかによって、ふき出しやかけ合いたい言葉の数も異なると捉えている。

・ 「二つにまとめたかけ合いたい言葉を書くか、一人一人が考えたかけ合いたい言葉を書くか」ということに触れて解答しているもの

↓右の場合は、青山さんの考えがふき出しの中に書くか、かけ合いたい言葉(「ありがとう」や「手伝うよ」など)をまとめるという提案、原田さんの考えがふき出しの中に書くかかけ合いたい言葉を一人一人が考えるという提案であると捉えている。

(3) 誤答について

■解説

○ の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いていないものや、言葉と言葉との関係を誤っているもの、字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。

設問二(2)

(1) 趣旨

話し手の発言を受け止め、話合いの方向を整理し、司会の役割を果たしながら計画的に話し合うことができるかどうかをみる。

司会の発言の意図を説明したものととして適切なものを選択する問題である。

本設問は、司会が参加者から出された発言の理由を確かめる場面を設定した。司会が公平な立場で一人一人の意見を聞き、どのような理由に基づいた発言であるかを確かめようとしている意図を捉えることが求められる。

本設問と過去の全国調査との関連をみると、平成十九年度の「国語B」及び、平成二十一年度の「国語A」において、司会の役割を問う問題を取り上げている。(※参考)

司会の役割を理解し、参加者から出される発言の理由を確認するなど、一人一人の立場や意図に注意しながら、計画的に話合いを進めることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと(第五・六学年)

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

■評価の観点

話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答

選択肢4 発言の理由を聞いて、話し合う必要があるのかを考えようとしている。

■解説

○ 竹中さんは、岩村さんの発言が話合いの流れから逸脱しているものと考えている。それに対して、司会の池上さんは、「今の岩村さんの質問は、大事なこともありません」と岩村さんの発言を受け止めている。しかし、岩村さんは発言の理由を述べておらず、その意図が不明確である。そこで、池上さんは、「岩村さん、どうしてそのような質問をしたのですか」と岩村さんに発言の理由を聞き、その意図を明確にした上で、全員で話し合う必要があるのかを考えようとしている。

話合いの流れに沿って、池上さんの発言の意図を捉える必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ 選択肢1 ↓ 多様な意見が出されているが、司会はその方向に収束する意図はないので誤答である。

○ 選択肢2 ↓ 話合いは円滑に進み、この場面では考える時間を必要としないので誤答である。

○ 選択肢3 ↓ 話合いの約束事を全員に対して具体的に確認しようとする発言ではないので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 司会や記録などの役割に応じた話す力や聞く力を高める

話し合いを計画的かつ効果的に進めていくためには、司会や記録などの役割に応じた話す力や聞く力を高めることが重要である。司会は、参加者に対して議題や話し合う順序を確認した上で、話し合う内容に合わせ、論点を整理しながら話し合いを進めることが必要である。また、時間配分を考え、話し合う内容の一つ一つについて一定の結論へと導くように進行していくことが大切である。記録は、提案や意見の共通点や相違点を整理しながら聞き、内容を簡潔にまとめることが必要である。このような司会や記録の役割を果たすための指導として、例えば、話し合いを録音したりビデオ撮影したりしたものを全員が視聴し、話し合いの進め方のよさや改善点について意見を交流する場を設定し、具体的なポイントを明確にすることが考えられる。

(2) 目的を踏まえて話し合う

話し合いには、グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、相互の知識や考え、意見などを出し合い、一つにまとめていく協議と、互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付けていく討論とがある。これらの特徴を理解し、目的を踏まえた話し合いになるようにすることが重要である。そのためには、学年の発達段階に合わせて、目的を踏まえた話し合いへ参加する心構えや約束事などについて、相互の理解が深まるように指導することが重要である。また、国語科のみならず、各教科等の学習においても、小集団や全体での話し合いの経験を積み重ねるように指導することが重要である。

(※参考) 過去の全国学力・学習状況調査との関連

| 設問番号 | 問題番号 | 問題の概要 | 正答率(%) |
|-------------|----------------|-----------------------------|--------|
| 一 | H22 A4 | メモを基にして、児童会だよりの中に入る適切な内容を書く | 六〇・六 |
| 二(1)ア イ・ | H19 B1 二 | 話し合いの内容を整理した司会者の発言を書く | 六三・一 |
| | H21 B2 二 | 話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける | 七五・六 |
| | H19 B1 二 | 司会者の進行の良いところを書く | 七九・二 |
| 二(2) | H21 A7 | 司会の進め方の良いところを説明する | 六八・二 |

2

第一小学校では、「あいさつ運動」に取り組むことになり、児童会の委員が、「資料1」のように提案をしました。その提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えをメモしたものが、「資料2」です。そして、「資料3」は、「資料2」をもとにして、児童会の委員が書いた児童会だよりの一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】児童会の委員が提案をした内容の一部

目的：元気なあいさつをして、学校生活を明るくする。
 提案①：あいさつをよびかけるポスターを校内にはる。
 ⇒ポスターは、全学年を対象にして、希望する人に出してもらおう。
 提案②：毎週月曜日を「あいさつデー」にする。
 ⇒「あいさつデー」の日は、児童会の委員が登校の時間に学校の出入口に立ち、あいさつをよびかける。
 ～（提案が続く）～

【資料2】提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えのメモ

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（意見①）</p> <p>ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。</p> | <p>（委員の考え）</p> <p>【案】 ・ポスター…取り下げる。 ・標語…取り上げる。 【理由】 標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつ大切さを考える機会になる。</p> |
| <p>（意見②）</p> <p>「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。</p> | <p>（委員の考え）</p> <p>【案】 ・下校の時間…取り上げない。 ・登校の時間…提案のとおり。 【理由】 下校の時間が学年によってちがう。委員がそのたびに出入口に立つことはおもしろくない。</p> |

～（メモが続く）～

【資料3】児童会だよりの一部

あいさつ運動「あいさつ運動」に取り組みます

児童会では、5月から「あいさつ運動」に取り組むことにします。先日、児童会の委員がみなさんに提案をした内容について、いくつかの学級から意見が出されました。そのことについて、委員の中で改めて考えたことを下のようまとめました。もう一度、学級で考えてみてください。
 ※取り組む内容や方法は、次回の代表委員会で決定します。

（意見①）ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。

（委員の考え）児童会の委員としては、ポスターは目に入りやすく、印象に残るので、効果があると考えていました。しかし、意見のとおり、ポスターを仕上げるためには、やはり時間がかかると思いました。

そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。

ア

（意見②）「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。

（委員の考え）下校の時間については、児童会の委員の中では話題になっていませんでした。確かに、意見のとおり、登校の時間だけではなく、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがあいさつをする場面は増えるでしょう。

イ

～（たよりの内容が続く）～

（条件）

- 【資料2】の（意見②）に対する（委員の考え）の中の内容をもとにして書くこと。
- 二つの文にして書くこととし、一つめは、「しからし（文のはじめ）、～します（文の終わり）」二つめは、「まはは（文のはじめ）、～からます（文の終わり）」という文の形にすること。
- 二つの文を合わせて、80字以上、100字以内にまとめて書くこと。

※下の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。二つめの文は一つめの文に続け、行を変えないで書きましょう。

◆

80字

100字

二 児童会の委員は、「資料3」のイの中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 【資料2】の（意見①）に対する（委員の考え）の中の内容をもとにして書くこと。
- 書き出しの文に続け、「まはは（文のはじめ）、～からます（文の終わり）」という文の形にして一文で書くこと。
- 書き出しの文をふくめて、80字以上、100字以内にまとめて書くこと。

※下の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。

◆

そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。

80字

100字

一 児童会の委員は、「資料3」のアの中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

1 出題の趣旨

目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くことができ
るかどうかをみる。

自分の考えと相手の考えとを比較し、相手の考えを踏まえながら、
自分の考えを相手が理解できるように理由を明確にして書く問題で
ある。

ここでは、児童会の委員が提案をした「あいさつ運動」の内容に
対して出された学級の意見を踏まえながら、新たな案や再提案につ
いての考えを「児童会だより」で回答する場面を設定した。児童会
の委員の提案と学級の意見とを比較、検討して、新たな自分の考え
を相手が理解できるように理由を明確にして書くことが求められ
る。

自分の考えを効果的に書くためには、異なる立場からの意見を踏
まえることが重要である。このことは、国語科のみならず、各教科
等の学習や日常生活においても必要な能力である。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一

(1) 趣旨

相手の考えを取り入れ、自分の考えについて、理由を明確にし
て書くことができるかどうかをみる。

自分の考えと相手の考えとを比較し、相手の考えを自分の考えに
取り入れ、理由を明確にして書く問題である。

ここでは、児童会の委員が提案をしたポスターの案を取り下げ、学
級の意見として出た標語の案を採用して、新たな提案をする場面を
設定した。新たな提案については、理由を明確にして書くことが求め
られる。

自分の考えを伝えるためには、相手が理解できるように理由を明
確にして書くことが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと（第五・六年）

ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図
に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

言語事項（第三・四学年）

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や
接続語を使うこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

書く能力

言語についての知識・理解・技能

(2) 正答について

■ 正答例

○ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) それは、ポスターよりも標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になるからです。(九十四字)

■ 解説

○ 【資料2】の「意見①」に対する「委員の考え」の「理由」に触れながら、八十字以上、百字以内にまとめて書く必要がある。正答の条件は、次の三つとする。

① 【資料2】の「意見①」に対する「委員の考え」の「理由」の二つの内容に触れている。

a 標語のほうが時間をかけずに取り組むことができる。
b 多くの人があいさつの大切さを考える機会になる。

② 「それは、くからです。」という文の形にして一文で書いている。

③ 書き出しの文を含めて、八十字以上、百字以内で書いている。

○ 児童会の委員の一つめの提案は、あいさつをよびかけるポスターを校内に貼るために、全学年を対象にして、希望する人にポスターを出してもらうことである。この提案に対して学級からは、「ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語(のような短い文)のほうが取り組みやすい」という意見が出されている。児童会の委員は、その意見に納得し、「ポスターの案を取り下げ、標語の案を取り上げる」ことにしている。その理由は、「標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になる」ということである。

(3) 誤答について

■ 解説

○ 「意見①」に対する「委員の考え」の理由の内容として、
a 「標語のほうが時間をかけずに取り組むことができる」ことと、
b 「多くの人があいさつの大切さを考える機会になる」ことの二つに触れて書くことが適切である。ただし、どちらか一方の内容に触れていなくても理由として成立するため、aあるいはbの内容のいずれかに触れて解答していれば条件①を満たすものとする。

○ 【資料2】の「意見①」に対する「委員の考え」に触れていないものは誤答とする。また、「それは、くからです。」という文の形にしていないもの、一文で書いていないもの、字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。

設問二

(1) 趣旨

相手の考えを取り下げ、自分の考えについて、理由を明確にして書くことができるかどうかをみる。

自分の考えと相手の考えとを比較し、相手の考えを取り下げ、改めて自分の考えを相手に理解できるように理由を明確にして書く問題である。

ここでは、学級から出た意見を採用せず、児童会の委員が当初の案を再提案する場面を設定した。再提案については、相手の考えを取り下げる理由を明確にして書くことが求められる。

自分の考えを伝えるためには、考えの中心となる文とその理由となる文との意味のつながりを考えながら、論理的に書くことが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

B 書くこと（第五・六学年）

ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

言語事項（第三・四学年）

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

書く能力

言語についての知識・理解・技能

(2) 正答について

■正答例

○ しかし、下校の時間にあいさつをよびかける案は取り上げず、登校の時間にだけ取り組むことにします。それは、下校の時間が学年によってちがいが、委員がそのたびに入入口に立つことはむずかしいからです。（九十五字）

○ 【資料2】の「意見②」に対する「委員の考え」の「案」と「理由」の二つに触れながら、八十字以上、百字以内に

まとめて書く必要がある。正答の条件は、次の四つとする。

① 二つめの文で、【資料2】の「意見②」に対する「委員の考え」の「案」の二つの内容に触れている。

a 下校の時間は取り上げないことにする。
b 登校の時間は提案のとおりにする。

② 二つめの文で、【資料2】の「意見②」に対する「委員の考え」の「理由」の二つの内容に触れている。

c 下校の時間が学年によってちがう。
d 委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい。

③ 二つめの文で書き、一つめの文は「しかし、くします。」、二つめの文は「それは、くからです。」という文の形で書いている。

④ 二つの文を合わせて、八十字以上、百字以内で書いている。

○ 児童会の委員の二つめの提案は、毎週月曜日を「あいさつデー」にし、登校の時間に委員が学校の出入口に立ってあいさつをよびかけることである。この提案に対して学級からは、「あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい」という意見が出されている。この意見を受けて、児童会の委員は、下校の時間にもあいさつをする案は取り上げず、当初の委

員の提案のとおり、登校の時間にだけあいさつをする案を取り上げることになっている。その理由は、「下校の時間が学年によってちがいがい、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい」ということである。

- 「意見②」に対する「委員の考え」の案の内容として、
a 「下校の時間は取り上げない」とことと、b 「登校の時間は提案のとおりにする」ことの二つに触れて書くことが適切である。ただし、どちらか一方の内容に触れていなくても案として成立するため、aあるいはbの内容のいずれかに触れて解答していれば条件①を満たすものとする。

- 「意見②」に対する「委員の考え」の理由の内容として、
c 「下校の時間が学年によってちがう」とことと、d 「委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい」とことの二つに触れて書くことが適切である。ただし、dの内容については、触れていなくても理由として成立するため、cのみ触れて解答していれば条件②を満たすものとする。

- 前述のとおり、条件①並びに条件②の正答の範囲を踏まえると、次のようなものは正答となる。
 - ・ 条件①、③、④のいずれも満たしているもののうち、条件②はcにのみ触れて解答しているもの
 - 〔具体例は、解答類型2の例1を参照のこと〕
 - ・ 条件②、③、④のいずれも満たしているもののうち、条件①はaあるいはbのいずれかに触れて解答しているもの
 - 〔具体例は、解答類型2の例2・例3を参照のこと〕
 - ・ 条件③、④をいずれも満たしているもののうち、条件①はaあるいはbのいずれかに触れ、条件②はcにのみ触れて解答しているもの
 - 〔具体例は、解答類型2の例4・例5を参照のこと〕

(3) 誤答について

■ 解説

○ 【資料2】の「意見②」に対する「委員の考え」に触れていないものは誤答とする。また、「しかし、～します。」「それは、～からです。」という文の形にしているもの、二文で書いていないもの、字数に過不足があるものなど、条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 相手の立場を踏まえながら自分の考えを書く

自分の立場からの主張だけでなく、相手の立場からの主張も踏まえて説得できるように工夫して書くことが重要である。また、多様な考えが目的や意図に合っているか、現実的に可能かどうかなどを念頭に置いて相互の考えを吟味することが必要である。そのためには、自分と相手の考えの共通点や相違点を明確にしながら、必要に応じ、相手の考えのよさを取り入れて自分の考えを効果的に書くように指導することが大切である。

(2) メモを活用して書く内容を整理する

書く内容を整理して、自分の考えを明確にすることが重要である。そのためには、自分の考えを書くために必要な材料を集めるためのメモや、集めた材料を構造的に整理するためのメモなどを工夫し、それらのメモを構成の段階や記述の段階などに活用できるように指導することが大切である。その際、自分が考えた内容を付箋に書き出し、取捨選択しながら貼っていくような形式のメモ、自分の考えに対する反論などを想定しながら付箋に書いていくような形式のメモなどを使い分けるような手だてが必要である。

3 伝記を読んで自分の考えを深める〈植村直己〉

3 関口さんの学級では、伝記に取り上げられた人物の生き方や伝記の書き表し方について、分かったことや考えたことを発表し合うことになりました。関口さんのグループは、冒険家の植村直己についての本を二冊選び、それらを読むことになりました。それぞれの本の一部である次の【資料1】と【資料2】とを比べて読みましょう。

【資料1】と【資料2】についての説明

植村直己は、南極を犬ぞりで探する冒険を夢見ています。そこで、まず北極へ行き、きびしい環境での生活に慣れようと考えました。その北極で、植村は、「エスキモー」とよばれる先住民と生活を共にすることにします。

次の【資料1】と【資料2】はどちらも、船で先住民の住む村に着いた日の植村の様子を書いた場面の一部です。先住民は、初めて会う植村のことを気にしています。

【資料1】

〔関本良文「植村直己・地球冒険62万キロ」による〕

【資料2】

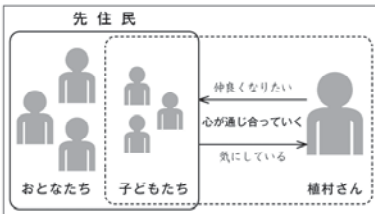
〔植村直己「極北に駆ける」による〕

植村直己
一九四一年（昭和十六年）生まれ。
日本人として初めて、世界で一番高い山であるエベレストに登るなど、数々の冒険を成功させた。

写真 植村直己の
写真

次は、関口さんがまとめた登場人物の関係を表した図と、その図をもとにして、グループで分かったことや考えたことを話し合っている様子の一部です。これらを読んで、おとの問いに答えましょう。

【関口さんがまとめた図】



【関口さんのグループが話し合っている様子の一部】

関口 この場面に出てくる人物の関係を図にまどめながら読むと、どちらの資料も植村さんと先住民の心が通じ合っていく様子が書かれていることが分かりました。

清水 わたしは、植村さんが先住民と仲良くなるために、ラジオ体操を思いついたところに感心しました。

松坂 ラジオ体操をしたことは、どちらにも書かれていましたが、【資料2】には、うてをひっぱりあう遊びのことも書かれていました。

関本 その遊びの中で子どもたちの手のあたたかさを感じた植村さんは、「ア」と確信しました。

松坂 はい。【資料1】には、「これでもう、だいじょうぶだ」と書かれていました。ただ、【資料1】では、子どもたちの様子からだけでなく、関口さんの図のとおりに、果まってきたおとなたちの様子からもそのように感じたのだと思いました。

関口 そうですね。【資料1】は、植村さんと子どもたちの行動を中心に、全体の様子を外から見るように書かれています。一方、【資料2】は、おとなたちの反応はよく分かりませんが、植村さんが感じたことはよく分かるように書かれています。

清水 なるほど。だから、【資料2】のほうが先住民と仲良くしたいという植村さんの気持ちや伝わってくるんですね。特に、「ア」という文には、その気持ちや強く表れています。

関本 それは、書き手がうからですね。【資料1】は、ウによって書かれたもので、【資料2】は、エによって書かれたものです。

関口 書き手がうからということは、【資料1】では、植村さんのことが「オ」と書かれ、【資料2】では、「カ」と書かれていることから分かります。

（話し合いが続く）

ア・イ の中に入るふさわしい言葉や文を、【資料2】の中からそれぞれめさ出しましょう。

二 ウ・エ・オ・カ の中に入るふさわしい言葉を、次の条件に合わせて書きましょう。

- ウ・エ は、「植村さん」・「先住民」・「植村さん以外の書き手」の中からそれぞれ選んで書くこと。
- オ・カ は、「資料1」・「資料2」の中の言葉をそれぞれぬき出すこと。

1 出題の趣旨

伝記を比べて読み、優れた叙述を多面的に捉えたり、自分の考えを深めたりすることができるとかどうかをみる。

伝記を比べて読み、互いの考えを交流することで、優れた叙述を多面的に捉えたり、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して自分の考えを深めたりする問題である。

ここでは、植村直己について書かれた本を二冊選んで読み、人物の生き方や伝記の書き表し方について分かったことや考えたことを話し合う場面を設定した。伝記の本の一部として、【資料1】は植村直己について他者が書いたもの（評伝）を、【資料2】は植村直己自身が書いたもの（自伝）を取り上げた。話合いの流れに沿って、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を多面的に捉えることが求められる。また、二つの資料の書き手の違いや書き表し方の特徴に着目しながら解釈することが求められる。

伝記を読み、優れた叙述や書き表し方に対する自分の考えを深めるためには、伝記に取り上げられた人物の行動や生き方と自分の経験や考えなどの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に、自分の考えをまとめることが重要である。また、読書のジャンルの一つとして文学的な文章と説明的な文章のそれぞれの特性をもつ伝記を読み、人物や場面の描写を的確かつ想像豊かに捉えることが必要である。さらに、自伝や評伝を比べて読み、様々な書き手の視点から人物を捉え、書き表し方の特徴を認識できるようにすることが大切である。

2 各設問の趣旨及び正答等

設問一ア・イ

(1) 趣旨

資料を比べて読み、互いの考えを交流することで、優れた叙述を多面的に捉えることができるとかどうかをみる。

二つの資料を比べて読み、互いの考えについてグループで話し合うことで、登場人物の心情や場面についての描写を捉える問題である。

本設問は、二つの資料を比べて読み、同じ場面で感じた植村の心情として適切な叙述を、それぞれの資料から取り出す場面を設定した。話合いの流れや内容を押さえるとともに、登場人物の相互関係を捉えながら、植村の心情が表れている叙述を取り出すことが求められる。

登場人物の心情を適切に捉えるためには、その人物の行動や心情の変化、場面の移り変わりなどを叙述に基づいて読むことが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと（第五・六年）

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

■評価の観点

読む能力

(2) 正答について

■正答

- 彼等は私を受けいれてくれるにちがいない

■解説

○ 【資料1】並びに【資料2】は、植村が先住民の住む村に着き、言葉が通じない先住民と仲良くなるためにラジオ体操をすることで心が通じ合っていく様子を描いている。植村が【資料1】で「これでもう、だいじょうぶだ」と感じた気持ちに照応する叙述を【資料2】から取り出す必要がある。

○ 「これでもう、だいじょうぶだ」に照応する叙述として、「彼等は私を受けいれてくれるにちがいない」という叙述を全て抜き出して書くことが適切である。ただし、主体である「私」や対象である「彼等」については、触れていなくても正答と同じ意味として判断できるため正答とする。また、肯定を強める言葉である「ちがいない」は、「受けいれてくれる」という気持ちを強調しているにすぎないので、植村の気持ちの中心となる「受けいれてくれる」という叙述を抜き出していれば正答とする。

(3) 誤答について

■解説

○ 【資料2】の中から、「これでもう、だいじょうぶだ」に照応する叙述を適切に抜き出していないものは誤答とする。

(2) 正答について

■正答

- 私は必死だった(。)

■解説

○ 【資料1】並びに【資料2】は、同じ場面の様子が書かれている。しかし、先住民と何とかして仲良くなりたいう植村の気持ちは、植村自身が書いた【資料2】の方に強く表れている。【資料2】から植村のその気持ちが書かれている部分に着目し、話合いの流れや内容に沿った叙述を一文で捉える必要がある。

○ 【資料2】には、先住民と何とかして仲良くなりたいう植村の気持ちは、荷揚げ作業を手伝ったあと(「荷あげ作業を手伝ったくらいで彼等の好意を得られると考えたのは、すこし甘かったのだろうか」と、ラジオ体操をしている最中(「私は必死だった(。))」に表れている。ただし、話合いでは、清水さんの発言の中に、「特に」や「強く」という限定的な表現を求めていることを押さえ、二つの叙述を比較し選択する必要がある。「私は必死だった(。))」の一文を抜き出しているものを正答とする。

(3) 誤答について

■解説

○ 【資料2】の中から、先住民と何とかして仲良くなりたいう植村の気持ちが強く表れている叙述を適切に抜き出していないものは誤答とする。

(1) 趣旨

資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深めることができるかどうかをみる。

二つの資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目することで、自分の考えを深める問題である。

本設問は、資料の書き表し方の特徴について、書き手の違いを捉えた上で解釈する場面を設定した。話合いの流れや内容を押さえるとともに、それぞれの資料の書き表し方の特徴を、表現の違いや植村を示す言葉の違いから解釈することが求められる。

書き手の違いや人物の書き表し方の特徴を適切に捉えるためには、複数の本を比べて読み、様々な違いを発見することで比べて読むことの意義を実感できるようにすることが重要である。

■学習指導要領における領域・内容

C 読むこと（第五・六年年）

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

■評価の観点

読む能力

(2) 正答について

■正答

ウ 植村さん以外の書き手

エ 植村さん

オ 直己

カ 私

■解説

○ 伝記は、第三者である筆者が特定の人物を調べて書いた伝記（評伝）と、伝記に登場する本人が自らの体験などを回想して書いた伝記（自伝）の二つに大別できる。【資料

1】は、第三者である筆者が植村を中心に先住民との関わりを描いた前者であり、【資料2】は、植村本人が自分の目を通して感じたり考えたりしたことを中心に描いた後者である。これらの違いについては、【資料1】では植村のことを「直己」と呼び、【資料2】では「私」と呼んでいるところに端的に表れている。

話合いの流れや内容を押さえ、二つの資料の書き手の違いや書き表し方の特徴に注意しながら、それぞれ適切な言葉を選択したり、二つの資料の中から言葉を抜き出したりする必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○ ウ・エ並びにオ・カは、それぞれ二つのうち、一つでも異なるものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 読書のジャンルの一つとして伝記を読む

読書のジャンルの一つとして、伝記を読むことが重要である。伝記は、文学的な文章と説明的な文章のそれぞれの特性をもって、取り上げられた人物の事実や事件などを時系列に押さえて読むことと、人物が感じたり考えたりしたことなどを想像しながら読むことができるように指導することが大切である。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、「C 読むこと」（第五・六学年）の言語活動例として、「伝記を読み、自分の生き方について考えること」を設定している。

(2) 自伝や評伝を比べて読む

自伝は、一般的に人物の行動や心情の描写などを詳細に書くという特徴がある。一方、評伝は、人物の業績や価値などについて概説するように書くという特徴がある。自伝と評伝とを比べて読み、それぞれの特徴に着目し、人物像を豊かに捉えて読むように指導することが大切である。また、評伝でも、書き手が異なると、取り上げる事柄や価値付けの仕方、表現の仕方が変わってくるので、複数を比べて読むように指導することが重要である。その上で、伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に、自分の考えをまとめるように指導することが重要である。

(3) 自らの生き方を振り返って考えを深める

伝記を読み、自らの生き方を振り返ったり、今後のことを展望したりしながら、自分の考えを深めることが重要である。そのためには、「何かに挑戦して失敗したとき」、「友人やライバルの存在」、「出会いの大切さ」などを観点として読むことが考えられる。また、「書くこと」との関連を図り、小学校生活での体験や見聞を随筆に書くなどの言語活動を設定して指導することなどが考えられる。

4 出典等

資料1 岡本文良『植村直己・地球冒険62万キロ』（一九八五年

八月 金の星社）による。

資料2 植村直己『植村直己に駆ける』（一九七七年十一月 文藝

春秋）による。

写真 『植村直己記念館』（一九九一年二月 文藝春秋編）による。

Ⅲ 調查問題等

小学校第6学年

国語 A

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
 - 2 調査問題には、国語と算数の問題があります。国語の問題は1ページから11ページまであります。算数の問題は反対側の表紙から始まり、1ページから10ページまであります。
 - 3 解答用紙には、国語の解答らんの面と算数の解答らんの面があります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
 - 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
 - 5 解答時間は、次のとおりです。
 - ・国語 A 20分間
 - ・算数 A 20分間※それぞれの時間になったら、合図があります。
- ※国語の問題を解き終わっても、算数の問題に進んではいけません。
- ※解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 机の上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

問題は、次のページから始まります。

— 次の(1)から(3)までの文の——部の漢字の読みを、ひらがなで書いていねいに書きましよう。

(1) 音楽室に 移動| する。

(2) すばらしい 演技| におどろく。

(3) むだを 省| くようにする。

二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

(1) 庭に うめ の木を植える。

(2) カラスの数が ひじょう に多い。

(3) 部屋の おんど を記録する。

2

長い文を読むときには、次の例のように、主語と述語との関係に注意すると意味が分かりやすくなります。

——部1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

(例)

みんなが植えた木は、どんどん育った。

(主語)

(述語)

わたしは、アサガオの青い花が次から次へとさいいて、やがて黒い色をした。たくさんの方が、できるまでの様子を毎日観察した。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

わたしは



花が



3

次は、体育委員の村山さんが学校のみんなにすすめる遊びについて、スピーチをしたものです。村山さんのスピーチを内容の取り上げ方の面から見ると、どのようなところがよいですか。その説明として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【村山さんがスピーチをした内容】

わたしは、長なわとびをすすめます。長なわとびは、学級のみんながいつせいに楽しむことができる遊びで、人数が多ければ多いほど盛り上がります。

長なわとびの遊び方は、学年に合わせていろいろなとび方や回し方をくふうすることができます。上の学年では、とぶ回数を競い合うようにすると、目標に向かってみんなで力を合わせることができます。下の学年では、長なわをゆっくりと左右にゆらしながらとぶようにすると、苦手な人も楽しく遊ぶことができます。

ぜひ学級全員で遊んでみてください。

- 1 実際に遊んだことがある人の感想や意見を取り上げているところがよい。
- 2 多くの人が楽しむことができる方法を取り上げているところがよい。
- 3 みんなで遊ぶときのきまりや約束ごとを取り上げているところがよい。
- 4 自分が成功したり失敗したりしたことを取り上げているところがよい。

4

次は、中西さんが放送委員としての一年間の目標について書いた文章です。

イ

ウ

の中に入るふさわしい言葉を、あとの1から5までの中からそれぞれ

一つ選んで、その番号を書きましよう。

ア

【中西さんが書いた一年間の目標】

わたしは、放送委員としての一年間の目標を二つ立てた。

一つは、みんなが時間に合わせて学校生活を送ることができるよう、放送をする時こくをしっかりと守ることである。

ア

こまめに時計を見て確かめようと思う。

イ

、放送を聞いている人に、内容を正しく伝えることができるように、話し方をくふうすることである。そこで、放送をする前に、原こうを読む速さや間の取り方を練習しようと思う。

ウ

、二つの目標の達成を目指して、一年間努力していきたい。

1 以上のように

2 その理由は

3 そのために

4 反対に

5 もう一つは

5

次は、新聞委員の北川さんが「一年生をむかえる会」の様子を伝えた、学校新聞の記事の下書きの一部です。――部を「一年生が」を主語にして書きかえます。あとの中に入るふさわしい内容を、意味を変えないようにして書きましよう。

【北川さんの下書きの一部】

元気いっぱい一年生 みんなの仲間入り！

四月十二日、きれいにかざった体育館で「一年生をむかえる会」がありました。進行係の合図のあと、六年生が、一年生の手を引いて、体育館に入場してきました。体育館いっぱいにはびきわたるたくさんのはく手。九十二人の一年生は、みんなにここに顔。

く（下書きが続く）く

※解答は、解答用紙に書きましよう。

一年生が、

、体育館に入場してきました。

次は、小池さんが住む糸野市で行われた、「図書祭り」について書かれた新聞の記事です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

A 読書の楽しさ広がる

糸野市 図書祭り

B 本の街、糸野市で19日から3日間、「図書祭り」が開催された。会場となった糸野市立図書館周辺では、祭りの名物となっている朗読大会や登場人物当てクイズなどのさまざまなイベントが開かれ、盛り上がった。



感情豊かに絵本を朗読する参加者

C 今年で3回目を迎える「図書祭り」には、市内外から昨年を約300人上回る約1200人もの参加者があり、例年以上のにぎわいを見せた。会場周辺の道路は歩行者専用になり、本や作家の紙を売る店が並んだ。地域交流館では、午前と午後に分け、登場人物当てクイズなどが催された。

特に人気だったのが朗読大会。プロの声優顔負けの朗読をした同市の小畑陽二さん（12）は、「みんなから大きな拍手をもらってとてもうれしかった。これからもいろいろな本の朗読に挑戦したい」と笑顔。祭りを企画した図書館長の平原直子さん（55）は、「年々、市立図書館の利用者数が少なくなっているが、この祭りを通して、読書をする楽しみをいろいろな形で感じてもらえたと思う。このことが利用者数の増加につながればうれしい」と声をはずませていた。

一 小池さんは、この記事の中の **A**・**B**・**C** の三つの関係について考えました。
三つの関係の説明としてふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 記事の中で最も伝えたかった内容を **A** で示し、それに賛成する考えを **B**、反対する考えを **C** に書いている。

2 記事として取り上げた内容の中で最も古い事実を **A** で示し、次に起こった事実を **B**、その次を **C** と順番に書いている。

3 記事の中で問題となっている事実を **A** で示し、それを解決するための具体的な方法を **B** と **C** に書いている。

4 記事の内容を短い言葉で見出しにして **A** で示し、その内容を **B** から **C** へとだんだんくわしく書いている。

二 小池さんは、この記事を読んで、糸野市立図書館において問題となっている事実が示されていることに気付きました。それは、どのような事実ですか。本文中の言葉を使って書きましょう。

7

次は、ある野原でのちようちよとハンカチの様子を表した、「ちようちよとハンカチ」という詩です。野口さんは、この詩を読んだ感想をノートにまとめました。

ふさわしい言葉を、詩の中からぬき出しましょう。

ア

の中に入る

【野口さんがまとめた感想】

ちようちよとハンカチは、それぞれに相手を「しろいもの」として見ている。その上で、ちようちよは、ハンカチのことを上から見て、「ア」

と知っている。一方、ハンカチは、ちようちよのことを下から見て、「かぜのこども

のハンカチ」と思っている。

ちようちよとハンカチがどちらも白い色をしていたことで、おたがいに仲間だとかんちがいをしているところがおもしろい。

(宮澤章二『知らない子』による。)

(宮澤章二『知らない子』による。)

8

国語辞典では、言葉が五十音順に並んでいます。また、形が変わる言葉は、言い切りの形で出ています。次の問いに答えましょう。

一 次の1から4までの言葉を国語辞典で調べます。最初に出てくる言葉を選んで、その番号を書きましょう。

1 電柱 でんちゅう

2 鉄道 てつどう

3 鉄筋 てつきん

4 電車 でんしゃ

二 「明日の試合にそなえて早くねる」の中の——部の言葉について調べます。国語辞典では、どのような言葉にして調べるとよいですか。ひらがな四文字で書きましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

次は、松本さんがお世話になった花屋の人に出す、お礼の手紙の下書きの一部です。清書をするとき、この下書きのどの言葉を、どのように書き直せばよいですか。その説明としてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【松本さんの下書きの一部】

先日は、花のなえの植えかえについて、いろいろなお話をしてくださって、本当にありがとうございます。とても勉強イになった。植えかえたあとの水やりの仕方などに気を付けないと、根がしっかりはらないことがあるウということについてよく分エかりました。

～（下書きが続く）～

- 1 — 部アは、大げさな言葉づかいになっているので、「ありがとうございます」としたほうがよい。
- 2 — 部イは、ていねいな表現になっていないので、「勉強になりました」としたほうがよい。
- 3 — 部ウは、相手に対して失礼な表現になっているので、「あります」としたほうがよい。
- 4 — 部エは、自分の考えを明確に言い切っていないので、「分かった」としたほうがよい。

これで、国語Aの問題は終わりです。

注意

合図があるまで、次のページを開かないでください。

小学校第6学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから12ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 机つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

問題は、次のページから始まります。

六年二組の池上さんの学級では、「友情・協力」という学級目標の達成につながるような学級の旗を作ることになりました。次は、学級の旗のデザインを決めるために話し合っている様子の一部と、記録係が発言などをまとめた黒板の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【池上さんの学級で話し合っている様子の一部】

池上(司会) (議題についての説明)

まず、黒木さんと竹中さんに提案をしてみたいです。二人の提案をもとに話し合いを進めていきましょう。それでは先に黒木さん、次に竹中さんの順でお願いします。

黒木 わたしが考えた旗は、黒板にはった上のものです。学級目標の「友情・協力」を強く意識できるように、この言葉を大きく書くことよと考えました。

竹中 ぼくの場合は、下の旗です。「友情・協力」という学級目標の達成のために、「声をかけ合う」を合い言葉にしたらよいいと思います。特に、男女が仲良く協力し合うことが大切だと思ふので、男女二人の顔の絵を入れました。

池上(司会) 黒木さんの提案と竹中さんの提案に共通する点は、旗の中に大切にしたい言葉を書くということです。ただ、その言葉が学級目標そのものか、それとも合い言葉にするかということがちがいます。また、絵を入れるかどうかもちがう点です。旗の中に言葉を書くということは、決定してもよいですか。

(右下に続く)

全員 はい。

池上(司会) それでは、どのような言葉を書くか、絵を入れるかどうかという二つのことについて話し合っていきたいと思います。では、意見を述べてください。

西野 ぼくは、旗に書く言葉は、黒木さんが提案をしたとおり、学級目標の「友情・協力」がよいいと思います。学級目標の言葉の意味を考えて行動するようになるからです。

小林 ①わたしは、竹中さんの「声をかけ合う」という言葉のほうがいいと思います。学級目標を達成するための行動が具体的に分かるからです。

青山 ぼくは、男女二人の顔の絵を入れることに賛成です。それに加えて、言葉と絵とを関係付けた意見ですが、口にふき出しを付け、その中に「ありがとう」や「手伝うよ」など、かけ合いたい言葉を書くのはどうでしょうか。

原田 青山さんの意見に賛成です。ただ、顔の絵については、学級全員分のほうがよいいと思います。一人一人にふき出しを付け、その中に自分が考えたかけ合いたい言葉を書くことよ

(左上に続く)

と思います。学級全員の気持ちを大切にすることにつながるからです。

池上(司会) みなさん、黒板を見てください。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点は、旗に顔の絵を入れ、

ア

ということですか。ちがう点は、

イ

ということですか。ちがう点について意見を
出してください。

岩村 質問があります。この旗は、いつも教室の

かべにはっておくようにするのですか。

竹中 それは今、話し合わなくてもよいと思います。

池上(司会) ② ちよつと待ってください。今の

岩村さんの質問は、大事なこともかもしれません。岩村さん、どうしてそのような質問をしたのですか。

岩村 行事のときなど、教室の外で旗を使うこと

も考えると、言葉や絵の入れ方も変わるので
はないかと考えたからです。

池上(司会) なるほど。岩村さんは、外で旗を

使うことを考えると、言葉や絵をどのように
入れたらよいと思いますか。

〜(話し合いが続く)〜

【記録係がまとめた黒板の一部】

〈議題〉学級の旗のデザインを決めよう

黒木さんの案

友情・協力

6年2組

竹中さんの案



■言葉について

◇学級目標そのもの

〔西野〕学級目標の言葉の意味を考えて行動するようになるから、「友情・協力」がよい。

◇合い言葉にする

〔小林〕

A

■絵について

◇絵を入れない

言葉と絵とを

関係付けている。

◇絵を入れる

〔青山〕男女二人の顔の絵に加え、かけ合いたい言葉を書く。

〔原田〕青山さんの意見に賛成だが、顔の絵は学級全員分にする。

〜(まとめた内容が続く)〜

一 記録係は、西野さんの発言を黒板に書きました。同じような書き方で、①部の小林さんの発言を書きます。【記録係がまとめた黒板の一部】のAの中に入るふさわしい内容を、「くから（理由）、くがよい（意見）」という文の形にして一文で書きましょう。

二 司会の池上さんは、出された発言に合わせて話し合いを進めています。次の問いに答えましょう。

(1) の発言は、青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点とちがう点を整理したものです。ア・イの中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて、発言の前後の言葉につながるようにしてそれぞれ書きましょう。

〈条件〉

○ ア・イそれぞれ、次のの四つの言葉の中から二つずつ使って書くこと。ただし、の四つの言葉は、一回しか使うことができません。

○ ア・イそれぞれ、二十字以上、三十字以内にまとめて書くこと。

- 男女二人
 - ふき出し
 - 学級全員分
 - かけ合いたい言葉

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する
点は、旗に顔の絵を入れ、

| イ | | ア | |
|-----|-----|-----|-----|
| 30字 | 20字 | 30字 | 20字 |

ということですか。ちがう点は、
ということですか。

(2) ② 部は、どのようなねらいで発言していますか。その説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 これまでに出てきたいくつかの意見を一つにまとめようとしている。
- 2 話し合いが進まないのを、考えをまとめる時間を与えようとしている。
- 3 話し合いをする上で大切にしてほしい約束を確かめようとしている。
- 4 発言の理由を聞いて、話し合う必要があるのかを考えようとしている。

【資料1】児童会の委員が提案をした内容の一部

目的：元気なあいさつをして、学校生活を明るくする。

提案①：あいさつをよびかけるポスターを校内にはる。
⇒ポスターは、全学年を対象にして、希望する人に出してもらおう。

提案②：毎週月曜日を「あいさつデー」にする。
⇒「あいさつデー」の日は、児童会の委員が登校の時間に学校の出入口に立ち、あいさつをよびかける。
～（提案が続く）～

【資料2】提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えのメモ

| 〔意見①〕 | 〔委員の考え〕 |
|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。</p> | <p>[案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポスター…取り下げる。 ●標語…取り上げる。 <p>[理由]</p> <p>標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になる。</p> |
| <p>「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。</p> | <p>[案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●下校の時間…取り上げない。 ●登校の時間…提案のとおり。 <p>[理由]</p> <p>下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい。</p> |

～（メモが続く）～

第一小学校では、「あいさつ運動」に取り組むことになり、児童会の委員が、【資料1】のように提案をしました。その提案に対する学級の意見と児童会の委員の考えをメモしたものが、【資料2】です。そして、【資料3】は、【資料2】をもとにして、児童会の委員が書いた児童会だよりの一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料3】 児童会だよりの一部

❁❁❁❁❁ 「あいさつ運動」に取り組みます ❁❁❁❁❁❁

児童会では、5月から「あいさつ運動」に取り組むことにします。先日、児童会の委員がみなさんに提案をした内容について、いくつかの学級から意見が出されました。そのことについて、委員の中で改めて考えたことを下のようにまとめました。もう一度、学級で考えてみてください。



※取り組む内容や方法は、次回の代表委員会で決定します。

〔意見①〕 ポスターは、仕上げるまでに時間がかかるので、標語のような短い文のほうが取り組みやすい。

〔委員の考え〕 児童会の委員としては、ポスターは目に入りやすく、印象に残るので、効果があると考えていました。しかし、意見のとおり、ポスターを仕上げるためには、やはり時間がかかると思いました。

そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。

ア

〔意見②〕 「あいさつデー」のときは、あいさつをする場面を増やすために、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがよい。

〔委員の考え〕 下校の時間については、児童会の委員の中では話題になっていませんでした。確かに、意見のとおり、登校の時間だけではなく、下校の時間にも出入口であいさつをよびかけるほうがあいさつをする場面は増えるでしょう。

イ

～（たよりの内容が続く）～

3

関口さんの学級では、伝記に取り上げられた人物の生き方や伝記の書き表し方について、分かったことや考えたことを発表し合うことになりました。関口さんのグループは、冒険家の植村直己なほみについての本を二冊さつ選び、それらを読むことにしました。それぞれの本の一部である、次の【資料1】と【資料2】とを比べて読みましょう。

【資料1】と【資料2】についての説明

植村直己は、南極を犬ぞりで旅する冒険を夢見ています。そこで、まず北極へ行き、きびしい環境かんきょうでの生活に慣れようと考えました。その北極で、植村は、「エスキモー」とよばれる先住民※と生活を共にすることにします。

次の【資料1】と【資料2】はどちらも、船で先住民の住む村に着いた日の植村の様子を書いた場面の一部です。先住民は、初めて会う植村のことを気にしています。

※「先住民」…その土地に昔から住んでいる人々のこと。

【資料1】

(岡本良文『植村直己・地球冒険62万キロ』による。)

【資料2】

(植村直己『極北に駆ける』による。)

植村直己
 一九四一年(昭和十六年)生まれ。
 日本人として初めて、世界で一番高い山であるエベレストに登るなど、数々の冒険を成功させた。

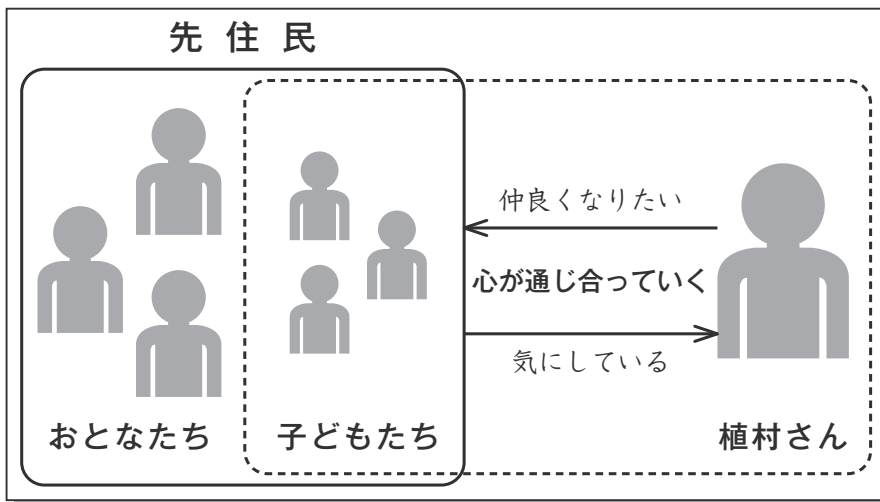
植村直己の
写真

(岡本良文『植村直己・地球冒険62万キロ』による。)

(植村直己『極北に駆ける』による。)

次は、関口さんがまとめた登場人物の関係を表した図と、その図をもとにして、グループで分かったことや考えたことを話し合っている様子の一部です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【関口さんがまとめた図】



【関口さんのグループが話し合っている様子の一部】

関口 この場面に出てくる人物の関係を図にまとめながら読むと、どちらの資料も植村さんと先住民の心が通じ合っていく様子が書かれていることが分かりました。

清水 わたしは、植村さんが先住民と仲良くなるために、ラジオ体操を思いついたところに感心しました。

松坂 ラジオ体操をしたことは、どちらにも書かれていましたが、**【資料2】**には、うでをひっぱりあう遊びのことも書かれていました。

橋本 その遊びの中で子どもたちの手のあたたかさを感じた植村さんは、「**ア**」と確信しました。

このような気持ち**【資料1】**にも書かれていましたね。
松坂 はい。**【資料1】**には、「これでもう、だいじょうぶだ」と書かれていました。ただ、**【資料1】**では、子どもたちの様子からだけではなく、関口さんの図のとおり、集まってきたおとなたちの様子からもそのように感じたのだと思いました。

関口 そうですね。【資料1】は、植村さんと子どもたちの行動を中心に、全体の様子を外から見るように書かれています。一方、【資料2】は、おとなたちの反応はよく分かりませんが、植村さんが感じたことはよく分かるように書かれています。

清水 なるほど。だから、【資料2】のほうが先住民と何とかして仲良くなりたいたいという植村さんの気持ち伝わってくるのですね。特に、「イ」という文には、その気持ちが強く表れています。

橋本 それは、書き手がちがうからですね。【資料1】は、ウによって書かれたもので、【資料2】は、エによって書かれたものです。

関口 書き手がちがうということは、【資料1】では、植村さんのことが「オ」と書かれて、【資料2】では、「カ」と書かれていることから分かります。

（話し合いが続く）

一 ア・イ の中に入るふさわしい言葉や文を、【資料2】の中からそれぞれぬき出しましょう。

二 ウ・エ・オ・カ の中に入るふさわしい言葉を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ ウ・エ は、「植村さん」・「先住民」・「植村さん以外の書き手」の中からそれぞれ選んで書くこと。

○ オ・カ は、【資料1】・【資料2】の中の言葉をそれぞれぬき出すこと。

平成23年度 全国学力・学習状況調査

平成23年4月 文部科学省

解答用紙

小学校第6学年
国語A 解答用紙

7011

← 《ここから右には解答を書いてはいけません。》 →

1

| | | |
|---|-----|-----|
| 一 | (2) | (1) |
| | (3) | (2) |
| | (1) | (3) |
| 二 | (2) | (1) |
| | (3) | (2) |
| | (1) | (3) |

6

| |
|---|
| 一 |
| 二 |

7

| |
|--|
| |
|--|

2

ア わたしは →

イ 花が →

8

| | | | |
|---|--|--|--|
| 一 | | | |
| 二 | | | |

3

| |
|--|
| |
|--|

9

| |
|--|
| |
|--|

4

| | | |
|---|---|---|
| ア | イ | ウ |
|---|---|---|

5

| |
|--|
| |
|--|

← 《ここから左には解答を転写してはいけません。》 →

← 《ここから下には解答を書いてはいけません。》 →

| |
|-----|
| 学校名 |
|-----|

| |
|---|
| 組 |
|---|

| |
|------|
| 出席番号 |
|------|

| |
|----|
| 男女 |
|----|

| |
|------|
| 個人番号 |
|------|

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

国A
算A

《ここから右には解答を書き写してはいけません。》

1

| | | | |
|-----|---|--------------------------------------|-----|
| (1) | | 青山さんの意見と原田さんの意見に共通する 点は、旗に顔の絵を入れ、 | |
| | ア | | 20字 |
| | | | 30字 |
| | | ということです。ちがう点は、 | |
| | イ | | 20字 |
| | | | 30字 |
| | | ということです。 | |

2

| | | | |
|-----|--|----------------------------------------------------------------|------|
| (2) | | ※◆の印から書きましょう。 ここで、ポスターの 案は取り下げて、標語 を取り上げることにし ます。◆ | |
| | | | 80字 |
| | | | 100字 |

2と3の解答らんは、裏面にあります。

《ここから右には解答を書き写してはいけません。》

《ここから下には解答を書き写してはいけません。》

| | | | | |
|-----|---|------|----|------|
| 学校名 | 組 | 出席番号 | 男女 | 個人番号 |
| | | | | |

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

国B

2

※◆の印から書きましょう。二つめの文は一つめの文に続け、行を変えないで書きましょう。

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|------|
| ◆ | | | | | | | | | | | 80字 |
| | | | | | | | | | | | 100字 |

3

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|---|--|--|--|---|--|--|---|
| カ | オ | | | ウ | | | | イ | | | ア |
| | エ | | | | | | | | | | |

正 答（例）

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているのので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

小学校第6学年
国語A 解答用紙

7011

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

1

| | | |
|---|-----|--------|
| 一 | (1) | いどう |
| | (2) | えんぎ |
| | (3) | はぶ (3) |
| 二 | (1) | 梅 |
| | (2) | 非常 |
| | (3) | 温度 |

↓ 解答類型 P.6 参照

2

ア わたしは

イ 花が

→ 4

→ 1

↓ 解答類型 P.7 参照

3

2

↓ 解答類型 P.7 参照

4

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | 3 | イ | 5 | ウ | 1 |
|---|---|---|---|---|---|

↓ 解答類型 P.7 参照

5

六年生に手を引かれて

↓ 解答類型 P.7 参照

6

| | |
|---|---------------------------------------|
| 一 | 4 |
| 二 | 年々、市立図書館の利 用者数が少なくなっ て いること。 |

↓ 解答類型 P.8 参照

7

とべないちようちよ

↓ 解答類型 P.8 参照

8

| | |
|---|---------|
| 一 | 3 |
| 二 | そ な え る |

↓ 解答類型 P.8 参照

9

2

↓ 解答類型 P.8 参照

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

《ここから下には解答を書いてはいけません。》

学校名

組

出席番号

男女

個人番号

国A
算A

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているのので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

1061

小学校第6学年
国語B 解答用紙

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

1

学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから、「声をかけ合う」がよい。

青山さんの意見と原田さんの意見に共通する点は、旗に顔の絵を入れ、

ア
口にふき出しを付けて、その中にかき合いた
い言葉を書く

イ
顔の絵を男女二人にするか、それとも学級全
員分にするか

と、ということですか。ちがう点は、

と、ということですか。

(2) 4 ↓ 解答類型 P.10 P.12 参照

20字

20字

30字

30字

80字

100字

2

※◆の印から書きましょう。

そこです、ポスターの
案は取り下げ、目標
を取り上げることにし
ます。◆それは、ポス
ターが
一時間もかかずに取り
組む人があさつきの
大会になるか
を考えます。

↓ 解答類型 P.13 参照

2と3の解答らんは、裏面にあります。

《ここから左には解答を転写してはいけません。》

《ここから下には解答を書いてはいけません。》

学校名

組

出席番号

男女

個人番号

国B

※個人番号票を見ながら、1はすに1けたずつ、数字を書き写してください。

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅱ 調査問題の解説」や「2 解答類型」に記載しているのので、採点や学習指導の改善等に当たってはそちらも参照されたい。

国語 B

《この枠からは解答を書きはいけません。》

2

※◆の印から書きましょう。二つめの文は一つめの文に続け、行を変えないで書きましょう。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| し | か | し | 、 | 下 | 校 | の | 時 | 間 | | |
| に | あ | い | さ | つ | を | よ | び | か | け | |
| る | 案 | は | 取 | り | 上 | げ | ず | 、 | 登 | |
| 校 | の | 時 | 間 | に | だ | け | 取 | り | 組 | |
| む | こ | と | に | し | ま | す | 。 | そ | れ | |
| は | 、 | 下 | 校 | の | 時 | 間 | が | 学 | 年 | |
| に | よ | っ | て | ち | が | い | 、 | 委 | 員 | |
| が | そ | の | た | び | に | 出 | 入 | 口 | に | |
| 立 | つ | こ | と | は | お | む | ず | か | し | い |
| か | ら | で | す | | | | | | | |

80字
100字

↓ 解答類型 P.14 P.15 参照

3

| | | | |
|---|---------------------|--|--|
| ア | 彼等は私を受けいれてくれるにちがいない | | |
| イ | 私は必死だった。(。) | | |
| ウ | 植村さん以外の書き手 | | |
| エ | 植村さん | | |
| オ | 直己 | | |
| カ | 私 | | |

↓ 解答類型 P.16 参照

《この枠からは解答を書きはいけません。》

点字問題（抜粋）

1

一 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した言葉の意味を、答えましょう。

- (1) 音楽室に「移動する。」
- (2) 楽器を「演そうする。」
- (3) 説明を「省略する。」

二 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した部分と同じ意味の漢字を用いるものを、あとのアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を書きましよう。

- (1) 山になえぎを
「しよく」りんする。
ア 「しよく」どうしゃ
イ 「しよく」ぶつ
ウ 「しよく」ぎよう
エ ニ「しよく」ボールペン
- (2) カラスの数が
ひ「じよう」に多い。
ア 「じよう」ちゆうげ
イ 「じよう」しゃけん
ウ うんどう「じよう」
エ へい「じよう」しん
- (3) 部屋の温度を
「き」ろくする。
ア につ「き」
イ 「き」いろ
ウ 四「き」
エ 「き」もち

ここから先のページは、
裏表紙の方からお読みください。

ここから先のページは,
表紙の方からお読みください。

【参考文献】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成10年12月告示，平成15年12月一部改正）」平成16年1月20日（改訂版）
- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成20年3月告示）」
- ・文部省「小学校学習指導要領解説国語編」平成11年5月31日
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」平成20年8月
- ・全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」平成18年4月25日
- ・文部科学省「読解力向上に関する指導資料～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」平成17年12月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）—評価規準，評価方法等の研究開発（報告）—」平成14年2月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」平成20年1月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成20年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」平成20年11月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成21年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」平成21年12月
- ・文部科学省 国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」平成22年10月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成19年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」平成19年5月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成20年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」平成20年4月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成21年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」平成21年4月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成22年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」平成22年4月

(62) 解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、
どのように解答しましたか。

- 1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で
あきらめたりしたものがあつた
- 3 書く問題は全く解答しなかった

あなたは、^{こんかい}今回の^{こくご}国語の問題^{もんだい}について、どのように^{おも}思いましたか。
^{つぎ}次の(61)、(62)のそれぞれについて、^あ当てはまるものを1つずつ^{えら}選んでください。

3

関口さんの学級では、伝記に取り上げられた人物の生き方や伝記の書き表し方について、分かったことや考えたことを発表し合うことになりました。関口さんのグループは、冒険家の植村直己^{うきむらなほぢ}についての本を二冊^{ふたふみ}選び、それらを読むことにしました。それぞれの本の一部である、次の【資料1】と【資料2】とを比べて読みましょう。

【資料1】と【資料2】についての説明

植村直己は、南極を犬ぞりで旅する冒険を夢見ています。そこで、まず北極へ行き、きびしい環境^{けいじょう}での生活に慣れようと考えました。その北極で、植村は、「エスキモー」とよばれる先住民と生活を共にすることにします。

次の【資料1】と【資料2】はどちらも、船で先住民の住む村に着いた日の植村の様子を書いた場面の一部です。先住民は、初めて会う植村のことを気にしています。

※「先住民」…その土地に昔から住んでいる人々のこと。

【資料1】

(岡本良文『植村直己・地球冒険62万キロ』による)

(岡本良文『植村直己・地球冒険62万キロ』による)

【資料2】

(植村直己『極北に駆ける』による)

(植村直己『極北に駆ける』による)

植村直己
 一九四一年(昭和十六年)生まれ。
 日本人として初めて、世界で一番高い山であるエベレストに登るなど、数々の冒険を成功させた。

写植村直己の
 写真

(61) この問題^{もんだい}にあるような、長い^{なが}文章^{ぶんしょう}を読むのは^よ難しい^{むずか}

- 1 難しい^{むずか}と思う^{おも}
- 2 どちらかといえば、難しい^{むずか}と思う^{おも}
- 3 どちらかといえば、難しい^{むずか}と思わない^{おも}
- 4 難しい^{むずか}と思わない^{おも}

| | | | |
|-------|----------------|------------------|---------|
| 当てはまる | どちらかといえは、当てはまる | どちらかといえは、当てはまらない | 当てはまらない |
|-------|----------------|------------------|---------|

(57) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(58) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている…… 1 — 2 — 3 — 4

(59) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(60) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる…………… 1 — 2 — 3 — 4

14 あなたは、^{こくご}国語についてどのように^{おも}思っていますか。^あ当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ^{えら}選んでください。

| | | | |
|-------|----------------|------------------|---------|
| 当てはまる | どちらかといえば、当てはまる | どちらかといえば、当てはまらない | 当てはまらない |
|-------|----------------|------------------|---------|

(52) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^す好きだ …………… 1 — 2 — 3 — 4

(53) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^{たいせつ}大切だ …………… 1 — 2 — 3 — 4

(54) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業の^{ないよう}内容はよく^わ分かる…………… 1 — 2 — 3 — 4

(55) ^{どくしょ}読書は^す好きだ…………… 1 — 2 — 3 — 4

(56) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業で^{がくしゅう}学習したことは、
^{しょうらい}将来、^{しゃかい}社会に出たときに^{やく}役に^た立つ…………… 1 — 2 — 3 — 4

3 質問紙調査項目 (教科関連部分)

解答類型 [点字問題] 【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 | |
|------|----------|--------------------------------------|----|
| 1 | 一 (1) | ・「移り動くこと」や「移し動かすこと」という意味が含まれているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 一 (2) | ・「音楽を奏でること」や「楽器を奏でること」という意味が含まれているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 一 (3) | ・「省いて簡単にすること」という意味が含まれているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 (1) | ・イと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 (2) | ・エと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 (3) | ・アと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |

解答類型

点字問題部分

| 問題番号 | 解 答 類 型 | | 類型番号 |
|------|----------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------|
| 3 | 一 ア | ・「彼等は私を受けいれてくれるにちがいない」などと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 一 イ | ・「私は必死だった (。)」などと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 ウ エ | ・ウに「植村さん以外の書き手」, エに「植村さん」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・ウに「植村さん以外の書き手」と解答しているが, エに「植村さん」と解答していないもの | 2 |
| | | ・ウに「植村さん以外の書き手」と解答していないが, エに「植村さん」と解答しているもの | 3 |
| | | ・ウに「植村さん」, エに「植村さん以外の書き手」と解答しているもの | 4 |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | | 二 オ カ | ・オに「直己」, カに「私」と解答しているもの |
| | ・オに「直己」と解答しているが, カに「私」と解答していないもの | 2 | |
| | ・オに「直己」と解答していないが, カに「私」と解答しているもの | 3 | |
| | ・上記以外の解答 | 9 | |
| | ・無解答 | 0 | |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2 | 二 (例5) ○ しかし、児童会の委員が <u>登校の時間に学校の出入口に立ち、あいさつをよびかける案だけを提案のとおりに行う</u> ことにします。それは、 <u>下校の時間が学年によってちがう</u> からです。(82字) →上記の例は、「条件① b+条件② c+条件③+条件④」となっている。 | |
| | ・条件①，②，③のいずれも満たしているが、条件④は満たしていないもの *条件①は ab いずれも、あるいはいずれかに触れているものとする。(類型4も同様) *条件②は cd いずれも、あるいはcにのみ触れているものとする。(類型4も同様) (例) ○ しかし、下校の時間に行わないことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員が出入口に立つことは <u>むずかしい</u> からです。(64字) →上記の例は、「条件① a+条件② cd+条件③」となっている。 | 3 |
| | ・条件①，②のいずれも満たしているが、条件③は満たしていないもの(例示の下線部は関係箇所) *条件④を満たしているかどうかは不問とする。(類型5も同様) (例) ○ しかし、下校の時間に行わないことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員が出入口に立つことは <u>むずかしい</u> 。 →上記の例は、「条件① a+条件② cd」となっている。 | 4 |
| | ・条件③は満たしているが、条件①，②のいずれも、あるいはいずれかを満たしていないもの(例示の下線部は関係箇所) (例1) ○ しかし、下校の時間に行わないことにします。それは、 <u>委員がそのたびに立つことはむずかしい</u> からです。 →上記の例は、「条件① a+条件③」となっている。 (例2) ○ しかし、 <u>登校の時間にあいさつをする案を取り上げない</u> ことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことは <u>むずかしい</u> からです。 →上記の例は、「条件② cd+条件③」となっている。 | 5 |
| | ・上記以外の解答 | 9 |
| | ・無解答 | 0 |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <p>② 二</p> | <p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 一つめの文で、【資料2】の〔意見②〕に対する〔委員の考え〕の〔案〕の二つの内容に触れている。 a 下校の時間は取り上げないことにする。 b 登校の時間は提案のとおりにする。</p> <p>② 二つめの文で、【資料2】の〔意見②〕に対する〔委員の考え〕の〔理由〕の二つの内容に触れている。 c 下校の時間が学年によってちがう。 d 委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい。</p> <p>③ 二つの文で書き、一つめの文は「しかし、～します。」、二つめの文は「それは、～からです。」という文の形で書いている。</p> <p>④ 二つの文を合わせて、80字以上、100字以内で書いている。</p> <hr/> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、下校の時間にあいさつをよびかける案は取り上げず、登校の時間にだけ取り組むことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしいからです。(95字) | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 条件①、②、③、④のいずれも満たしているもの | 1◎ |
| | <ul style="list-style-type: none"> 条件①、③、④のいずれも満たしているもののうち、条件②はcにのみ触れているもの(例示の下線部は関係箇所) <p>(例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、下校の時間にあいさつをする案は取り上げず、提案のとおり、登校の時間にだけあいさつ運動に取り組むことにします。それは、<u>下校の時間が学年によってちがう</u>からです。(83字) →上記の例は、「条件① ab+条件② c+条件③+条件④」となっている。 <ul style="list-style-type: none"> 条件③、④のいずれも満たしているもののうち、条件①はaあるいはbのいずれかに触れ、条件②はcdのいずれにも触れているもの(例示の下線部は関係箇所) <p>(例2)</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、<u>下校の時間にあいさつをよびかける案は取り下げる</u>ことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことがむずかしいからです。(82字) →上記の例は、「条件① a+条件② cd+条件③+条件④」となっている。 <p>(例3)</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、<u>提案のとおり、登校の時間だけにあいさつをよびかける</u>ことにします。それは、下校の時間が学年によってちがう、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしいからです。(84字) →上記の例は、「条件① b+条件② cd+条件③+条件④」となっている。 <ul style="list-style-type: none"> 条件③、④をいずれも満たしているもののうち、条件①はaあるいはbのいずれかに触れ、条件②はcにのみ触れて解答しているもの(例示の下線部は関係箇所) <p>(例4)</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、学級の意見として出された、児童会の委員が<u>下校の時間</u>に<u>出入口</u>に立ち、あいさつをよびかける案は取り上げないことにします。それは、<u>下校の時間が学年によってちがう</u>からです。(88字) →上記の例は、「条件① a+条件② c+条件③+条件④」となっている。 <p style="text-align: right;">〈次頁に続く〉</p> | 2◎ |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ② | <p>一</p> <p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 【資料2】の〔意見①〕に対する〔委員の考え〕の〔理由〕の二つの内容に触れている。 a 標語のほうが時間をかけずに取り組むことができる。 b 多くの人があいさつの大切さを考える機会になる。</p> <p>② 「それは、～からです。」という文の形にして一文で書いている。</p> <p>③ 書き出しの文を含めて、80字以上、100字以内で書いている。</p> <hr/> <p>(正答例) ・ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) それは、ポスターよりも標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になるからです。(94字)</p> | |
| | <p>・ 条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの</p> | 1◎ |
| | <p>・ 条件②, ③のいずれも満たしているもののうち、条件①は a あるいは b のいずれかに触れているもの (例示の下線部は関係箇所)</p> <p>(例1) ○ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) それは、<u>絵をかいたり字を書いたりするポスターよりも標語のほうが時間をかけずに取り組むことができる</u>からです。(86字) →上記の例は、「条件① a+条件②+条件③」となっている。</p> <p>(例2) ○ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) それは、ポスターよりも標語に取り組むことで<u>多くの人があいさつの大切さを考える機会になる</u>からです。(81字) →上記の例は、「条件① b+条件②+条件③」となっている。</p> | 2○ |
| | <p>・ 条件①, ②のいずれも満たしているが、条件③は満たしていないもの * 条件①は ab いずれも、あるいはいずれかに触れているものとする。(類型4も同様)</p> <p>(例) ○ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) それは、時間をかけずに取り組むことができるからです。(59字) →上記の例は、「条件① a+条件②」となっている。</p> | 3 |
| | <p>・ 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所) * 条件③を満たしているかどうかは不問とする。</p> <p>(例) ○ (そこで、ポスターの案は取り下げて、標語を取り上げることにします。) <u>そして、ポスターよりも標語のほうが時間をかけずに取り組むことができ、多くの人があいさつの大切さを考える機会になるから。</u> →上記の例は、「条件① aのみ」となっている。</p> | 4 |
| | <p>・ 上記以外の解答</p> <p>・ 無解答</p> | 9 0 |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 | 二 (1) イ (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① <input type="checkbox"/> の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いている。 ② 「男女二人の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか、学級全員分の顔の絵の口にふき出しを付けてかけ合いたい言葉を書くか」ということに触れている。 ③ 20字以上、30字以内で書いている。 | |
| | (正答例) ・ 顔の絵を男女二人にするか、それとも学級全員分にするか (26字) | |
| | ・ 条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの | 1◎ |
| | ・ 条件①, ②のいずれも満たしているが、条件③は満たしていないもの | 2 |
| | (例) ○ 顔の絵は男女二人か、学級全員分か (16字) | |
| | ・ 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所) *条件③を満たしているかどうかは不問とする。(類型4も同様) | 3 |
| | (例) ○ 男女二人 <u>だけではなく</u> 、学級全員分の顔の絵の <u>ほうがよい</u> ○ 男女二人でも学級全員分でも <u>一人一人の気持ちを大切に</u> する →上記の二つの例は、選んだ二つの言葉の関係が事実と反している。 | |
| | ・ 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所) | 4 |
| | (例1) ○ 顔の絵を <u>男女二人</u> にするか、それとも別のものにするか →上記の例は、 <input type="checkbox"/> の四つの言葉の中から、二つの言葉を選んでいない。 | |
| | (例2) ○ 顔の絵を <u>男子と女子二人分</u> にするか、学級全員分にするか →上記の例は、 <input type="checkbox"/> 中の言葉を誤って書いている。 | |
| | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | ・ 無解答 | 0 |
| | ・ 1と解答しているもの | 1 |
| | ・ 2と解答しているもの | 2 |
| | ・ 3と解答しているもの | 3 |
| | ・ 4と解答しているもの | 4◎ |
| | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | ・ 無解答 | 0 |
| | 二 (2) | |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 | <p>二 (1) ア</p> <p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① <input type="checkbox"/>の四つの言葉のうち、二つの言葉を選んで書いている。 ② 「口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉を書く」ことに触れている。 ③ 20字以上、30字以内で書いている。</p> <hr/> <p>(正答例) ・ 口にふき出しを付けて、その中にかけ合いたい言葉を書く (26字)</p> | |
| | <p>・ 条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの</p> | 1◎ |
| | <p>・ 条件①, ②のいずれも満たしているが、条件③は満たしていないもの</p> <p>(例) ○ ふき出しの中に、かけ合いたい言葉を書く (19字)</p> | 2 |
| | <p>・ 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所) *条件③を満たしているかどうかは不問とする。(類型4も同様)</p> <p>(例) ○ <u>かけ合いたい言葉を書いて、その中にふき出しを付ける</u> ○ <u>ふき出しよりかけ合いたい言葉がよい</u> →上記の二つの例は、選んだ二つの言葉の関係が事実と反している。</p> | 3 |
| | <p>・ 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例示の下線部は関係箇所)</p> <p>(例1) ○ <u>男女二人か学級全員分かの顔の絵にふき出しを付け、かけ合いたい言葉を書く</u> →上記の例は、<input type="checkbox"/>の四つの言葉の中から、二つの言葉を選んでいない。</p> <p>(例2) ○ <u>ふき出しを付けて、その中にかけてほしい言葉を書く</u> →上記の例は、<input type="checkbox"/>の中の言葉を誤って書いている。</p> | 4 |
| | <p>・ 上記以外の解答</p> | 9 |
| | <p>・ 無解答</p> | 0 |

解答類型【小学校国語】

B 主として「活用」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 | 一 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 理由の内容として、「学級目標を達成するための行動が具体的に分かる」ことに触れている。 ② 意見の内容として、「竹中さんが提案した『声をかけ合う』という言葉」に触れている。 ③ 「～から(理由)、～がよい(意見)。」という文の形にして一文で書いている。 ----- (正答例) ・ 学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから、「声をかけ合う」がよい。 | |
| | ・ 条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの | 1 ◎ |
| | ・ 条件①, ②はいずれも満たしているが, 条件③は満たしていないもの(例示の下線部は関係箇所) (例1) ○ 学級目標を達成するための行動が具体的に分かる <u>ので</u> , 「声をかけ合う」に賛成します。 →上記の例は, 「～から,」, 「～がよい。」を使っていない。 (例2) ○ 「声をかけ合う」がよい。 <u>学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから</u> 。 →上記の例は, 「～から, ～がよい。」という文の形にしないで, 二文で書いている。 (例3) ○ 学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから, 「声をかけ合う」がよい。 <u>男女が仲良くし合うことも大切だから</u> 。 →上記の例は, 「～から, ～がよい。」という文の形にしているが, 二文で書いている。 | 2 |
| | ・ 条件①, ③はいずれも満たしているが, 条件②は満たしていないもの(例示の下線部は関係箇所) (例) ○ 学級目標を達成するための行動が具体的に分かるから, 「 <u>友情・協力</u> 」がよい。 →上記の例は, 小林さんが述べた意見の内容に反している。 | 3 |
| | ・ 条件②, ③はいずれも満たしているが, 条件①は満たしていないもの(例示の下線部は関係箇所) (例) ○ <u>竹中さんの言葉がよいと思うから</u> , 「声をかけ合う」がよい。 →上記の例は, 意見の内容を理由の内容として書いている。 | 4 |
| | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | ・ 無解答 | 0 |

解答類型

B 主として「活用」に関する問題

| 問題番号 | 解 答 類 型 | | 類型番号 |
|---------------|---------|-----------------------------------------|------|
| 6 | 一 | ・ 1 と解答しているもの | 1 |
| | | ・ 2 と解答しているもの | 2 |
| | | ・ 3 と解答しているもの | 3 |
| | | ・ 4 と解答しているもの | 4◎ |
| | | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | | ・ 無解答 | 0 |
| | 二 | ・ 「年々，市立図書館の利用者数が少なくなっていること」などと解答しているもの | 1◎ |
| | | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | | ・ 無解答 | 0 |
| | 7 | ・ 「とべないちょうちよ」のように，「ちょうちよ」に触れて解答しているもの | 1◎ |
| ・ 上記以外の解答 | | 9 | |
| ・ 無解答 | | 0 | |
| 8 | 一 | ・ 1 と解答しているもの | 1 |
| | | ・ 2 と解答しているもの | 2 |
| | | ・ 3 と解答しているもの | 3◎ |
| | | ・ 4 と解答しているもの | 4 |
| | | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | | ・ 無解答 | 0 |
| | 二 | ・ 「そなえる」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・ 上記以外の解答 | 9 |
| | | ・ 無解答 | 0 |
| | 9 | ・ 1 と解答しているもの | 1 |
| ・ 2 と解答しているもの | | 2◎ | |
| ・ 3 と解答しているもの | | 3 | |
| ・ 4 と解答しているもの | | 4 | |
| ・ 上記以外の解答 | | 9 | |
| ・ 無解答 | | 0 | |

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2 | ・アの述語に4，イの述語に1と解答しているもの | 1◎ |
| | ・アの述語に4と解答しているが，イの述語に1と解答していないもの | 2 |
| | ・アの述語に4と解答していないが，イの述語に1と解答しているもの | 3 |
| | ・上記以外の解答 | 9 |
| | ・無解答 | 0 |
| 3 | ・1と解答しているもの | 1 |
| | ・2と解答しているもの | 2◎ |
| | ・3と解答しているもの | 3 |
| | ・4と解答しているもの | 4 |
| | ・上記以外の解答 | 9 |
| | ・無解答 | 0 |
| 4 | ・アに3，イに5，ウに1と解答しているもの | 1◎ |
| | ・アに3，イに5と解答しているが，ウに1と解答していないもの | 2 |
| | ・アに3，ウに1と解答しているが，イに5と解答していないもの | 3 |
| | ・イに5，ウに1と解答しているが，アに3と解答していないもの | 4 |
| | ・上記以外の解答 | 9 |
| | ・無解答 | 0 |
| 5 | <p>・「六年生に手を引かれて」のように，一年生と六年生との関係を押さえて解答しているもの</p> <p>(例)</p> <p>○ 六年生から手を引かれて</p> <p>○ 六年生に手を引かれながら</p> | 1◎ |
| | <p>・「六年生と手をつないで」のように，一年生と六年生の様子が不明確な解答</p> <p>「六年生の手を引いて」のように，一年生と六年生との関係を変えている解答</p> <p>(例示の下線部は関係箇所)</p> <p>(例)</p> <p>○ 六年生と<u>いっしょに</u></p> <p>○ 六年生を<u>連れて</u></p> | 2 |
| | ・上記以外の解答 | 9 |
| | ・無解答 | 0 |

解答類型 【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件を全て満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

| 問題番号 | 解答類型 | 類型番号 | |
|----------|----------------------------|-----------------------------|----|
| 1 | 一 (1) | ・「いどう」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・「い」と解答しているが、「どう」と解答していないもの | 2 |
| | | ・「い」と解答していないが、「どう」と解答しているもの | 3 |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 一 (2) | ・「えんぎ」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・「えん」と解答しているが、「ぎ」と解答していないもの | 2 |
| | | ・「えん」と解答していないが、「ぎ」と解答しているもの | 3 |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 一 (3) | ・「はぶ(く)」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 (1) | ・「梅」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| | | ・無解答 | 0 |
| | 二 (2) | ・「非常」と解答しているもの | 1◎ |
| | | ・「非」と解答しているが、「常」と解答していないもの | 2 |
| | | ・「非」と解答していないが、「常」と解答しているもの | 3 |
| | | ・上記以外の解答 | 9 |
| ・無解答 | | 0 | |
| 二 (3) | ・「温度」と解答しているもの | 1◎ | |
| | ・「温」と解答しているが、「度」と解答していないもの | 2 | |
| | ・「温」と解答していないが、「度」と解答しているもの | 3 | |
| | ・上記以外の解答 | 9 | |
| | ・無解答 | 0 | |

2 解答類型

A 主として「知識」に関する問題

調査問題一覧表 【小学校国語】
B 主として「活用」に関する問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域等 | | | | | 評価の観点 | | | | | 問題形式 | | |
|------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------|---|---|---|-----|-------|---|---|-----|---|------|---|---|
| | | | 聞話 | 書 | 読 | 言 | 関国 | 話 | 書 | 読 | 知 | 選 | 短 | 記 | |
| | | | くす | く | む | 語 | 心・語 | す・聞 | く | む | 識・理 | 択 | 答 | 述 | |
| 1 | 一 記録係として発言を聞き、理由と意見を整理して簡潔に書く | 話し手の意図を捉えながら聞き、意見と理由をまとめる | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| | 二(1)ア 司会として発言を聞き、意見の共通点と相違点を整理して書く | 互いの考えの共通点と相違点を考え、司会の役割を果たしながら計画的に話し合う | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ |
| | 二(1)イ 司会の発言の意図を説明したものとして適切なものを選択する | 話し手の発言を受け止め、話合いの方向を整理し、司会の役割を果たしながら計画的に話し合う | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | | |
| | 二(2) 提案に対する相手の意見を取り入れて、自分の考えについての理由を書く | 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 2 | 一 提案に対する相手の意見を取り下げて、自分の考えと理由を書く | 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| | 二 二つの伝記を比べて読み、登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出して書く | 資料を比べて読み、互いの考えを交流することで、優れた叙述を多面的に捉える | | | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 3 | 一ア 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする | 資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深める | | | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ |
| | 一イ 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする | 資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深める | | | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ |
| | 二ウエ 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする | 資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深める | | | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ |
| | 二オカ 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする | 資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深める | | | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ |

調査問題一覧表 【小学校国語】
A 主として「知識」に関する問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域等 | | | | 評価の観点 | | | | | 問題形式 | | |
|------|-----------------------------------------|---------------------------------------------|------------|---|---|---|------------|---------|------|------|-----------|------|-----|-----|
| | | | 聞話 | 書 | 読 | 言 | 関心・語意欲・態度の | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解・技能の | 選択式 | 短答式 | 記述式 |
| 1 | (1) 漢字を読む（音楽室に移動する。） | 学年別漢字配当表の第五学年までに配当されている漢字を正しく読む | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | (2) 漢字を読む（すばらしい演技におどろく。） | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | (3) 漢字を読む（むだを省くようにする。） | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| 1 | (1) 漢字を書く（庭に <u>うめ</u> の木を植える。） | 学年別漢字配当表の第五学年までに配当されている漢字を正しく書く | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | (2) 漢字を書く（カラスの数が <u>ひじょう</u> に多い。） | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | (3) 漢字を書く（部屋のお <u>んど</u> を記録する。） | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| 2 | 文の中における複数の主語の述語に当たるものをそれぞれ選択する | 文の中における複数の主語と述語とを照応する | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 3 | スピーチの内容の取り上げ方のよいところを説明したものとして適切なものを選択する | 相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話す | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 4 | 文と文、段落と段落との接続関係が整うように適切な言葉をそれぞれ選択する | 文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割を考えながら、接続関係を整えて書く | | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 5 | 主語を置き換えて記事の下書きを書き直す | 目的や意図に応じ、表現の効果を考え書き換える | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 6 | 一 新聞記事の構成を説明したものとして適切なものを選択する | 必要な情報を得るために、新聞記事を効果的に読む | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| | 二 新聞記事の中で問題となっている事実を捉えて書く | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| 7 | ちようちよとハンカチの関係を押さえ、感想の一部に適切な言葉を抜き出して書く | 詩の情景について、叙述を基に想像しながら読む | | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ |
| 8 | 一 四つの言葉の中から国語辞典に最初に出てくる言葉を選択する | 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解する | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| | 二 国語辞典を利用して調べる言葉を言い切りの形に直して書く | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 9 | お礼の手紙の下書きの書き直し方を説明したものとして適切なものを選択する | 相手や目的に応じ、敬体と常体との違いに注意して書く | | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | |

1 調查問題一覽表

(SOY INK)

本書の一部または全部を無断で転載，複製することを禁じます。